

## 付属資料 1 策定経過

## ■ 諏訪湖創生ビジョン会議

	会議名	開催時期	会議概要	参加者
1	第1回諏訪湖創生ビジョン会議	2017年5月12日	・諏訪湖創生ビジョン会議設置要綱 ・ワーキンググループの設置 ・スケジュール、論点整理	諏訪湖創生ビジョンメンバー
2	第2回諏訪湖創生ビジョン会議	2017年9月26日	骨子案（たたき台）について	諏訪湖創生ビジョンメンバー
3	第3回諏訪湖創生ビジョン会議	2017年12月26日	ビジョン（案）について	諏訪湖創生ビジョンメンバー
4	第4回諏訪湖創生ビジョン会議	2018年3月9日	ビジョン決定について	諏訪湖創生ビジョンメンバー

## ■ 諏訪湖創生ビジョン会議ワーキンググループ

	ワーキンググループ名	開催時期	会議概要	参加者
1	第1回水環境保全ワーキンググループ	2017年6月20日	検討スケジュール、第7期水質保全計画の水質保全施策、論点整理・確認等について	水環境保全ワーキンググループメンバー
2	第2回水環境保全ワーキンググループ	2017年7月18日	第7期水質保全計画の策定、ビジョン目次（案）、構成について	水環境保全ワーキンググループメンバー
3	第3回水環境保全ワーキンググループ	2017年8月28日	第7期水質保全計画（素案）について	水環境保全ワーキンググループメンバー
4	第4回水環境保全ワーキンググループ	2017年10月23日	第7期水質保全計画（案）について	水環境保全ワーキンググループメンバー
5	第5回水環境保全・生態系保全合同ワーキンググループ	2017年12月12日	ビジョン案について （生態系保全グループと合同開催）	水環境保全及び生態系保全ワーキンググループメンバー
6	第1回生態系保全ワーキンググループ	2017年6月20日	論点整理・確認等について	生態系保全ワーキンググループメンバー
7	第2回生態系保全ワーキンググループ	2017年7月19日	目標値・指標値について	生態系保全ワーキンググループメンバー
8	第3回生態系保全ワーキンググループ	2017年9月8日	ビジョン骨子素案について	生態系保全ワーキンググループメンバー
9	第4回生態系保全ワーキンググループ	2017年10月23日	ビジョン骨子案について	生態系保全ワーキンググループメンバー
10	第5回水環境保全・生態系保全合同ワーキンググループ	2017年12月12日	ビジョン案について （水環境保全グループと合同開催）	生態系保全及び水質保全ワーキンググループメンバー
11	第1回湖辺面活用まちづくりワーキンググループ	2017年6月8日	論点整理・確認等について	湖辺面活用・まちづくりワーキンググループメンバー
12	第2回湖辺面活用まちづくりワーキンググループ	2017年7月28日	取組項目・構成について	湖辺面活用・まちづくりワーキンググループメンバー
13	第3回湖辺面活用まちづくりワーキンググループ	2017年9月7日	ビジョン骨子素案について	湖辺面活用・まちづくりワーキンググループメンバー
14	第4回湖辺面活用まちづくりワーキンググループ	2017年12月12日	ビジョン案について	湖辺面活用・まちづくりワーキンググループメンバー

諏訪湖創生ビジョン会議構成員

所 属	職 名
	副知事（環境政策担当）
環境部	水大気環境課長
	自然保護課長
観光部	山岳高原観光課長
農政部	農業技術課長
	園芸畜産課長
林務部	森林づくり推進課長
建設部	河川課長
諏訪保健福祉事務所	所長
	健康づくり支援課長
松本保健福祉事務所	検査課長
環境保全研究所	水・土壌環境部長
水産試験場	諏訪支場長
諏訪建設事務所	所長
	諏訪湖流域下水道事務所長
	維持管理課長
	整備課長
諏訪地域振興局	局長
	副局長
	環境課長
	農政課長
	林務課長
	商工観光課長
	企画振興課長

■ 意見交換会・アンケート等

	会議名	開催時期	会議概要	参加者
1	諏訪湖クラブ・信州ネットSUWAとの意見交換会	2017年2月13日	諏訪湖を活かしたまちづくりに係る意見交換	諏訪湖クラブ・信州ネットSUWA会員
2	サイクリングロード活用検討会	2017年2月16日	講演会、諏訪湖周サイクリングロードの利活用に係る意見交換（併せてアンケート用紙を配布）	市町村、観光関連団体、自転車愛好家、住民等
3	諏訪湖アダプトプログラム会議	2017年3月10日	諏訪湖アダプトプログラムの活動実績報告等（概要説明、併せてアンケート用紙を配布）	アダプトプログラム活用団体等
4	諏訪湖環境改善行動会議全体会議	2017年3月21日	新年度事業計画等（併せてアンケート用紙を配布）	市町村、環境関係団体、観光関連団体等
5	諏訪湖創生ビジョン策定に係る懇談会	2017年3月23日	「諏訪湖創生ビジョン」に係る意見交換（併せてアンケート用紙を配布）	市町村、環境関係団体、観光関連団体等
6	諏訪湖創生ビジョン策定に係る住民アンケート	2017年3月下旬～ 2017年5月10日	「諏訪湖創生ビジョン」に係るアンケート実施（生活情報誌「ぶらざ」へ折込、諏訪地域全戸にアンケート用紙を配布）	諏訪地域の住民
7	ワークショップ	2017年5月29日	「諏訪湖創生ビジョン」策定に向けたワークショップ	諏訪湖環境改善行動会議メンバー
8	諏訪湖に係る有識者等との懇談	2017年7月10日	知事と諏訪湖に関わる関係者等との懇親を深め、意見交換	環境関係団体・観光関係団体等の代表者
9	諏訪湖創生ビジョン策定に係る小学生等へのアンケート	2017年8月4日	「諏訪湖創生ビジョン」に係るアンケート実施（諏訪湖流域下水道事務所主催「夏休み・水の教室」時に、参加者（小学生及び保護者）へアンケート用紙を配布）	小学3年生以上及び保護者
10	第1回諏訪湖創生ビジョン会議地域懇談会	2017年8月28日	諏訪湖に係る課題（負酸素対策、浚渫等）の情報共有意見交換	諏訪湖環境改善行動会議メンバー 諏訪湖に関する有識者 地域住民
11	諏訪湖創生ビジョン策定に係る小学生等へのアンケート	2017年8月30日	「諏訪湖創生ビジョン」に係るアンケート実施（諏訪市高島小学校5年生環境学習時アンケート用紙を配布）	高島小5年生
12	第2回諏訪湖創生ビジョン会議地域懇談会	2017年10月26日	諏訪湖創生ビジョン骨子（案）に関する意見交換	諏訪湖環境改善行動会議メンバー 諏訪湖に関する有識者 地域住民
13	ふるふる in 諏訪高校生プロジェクト発表会	2017年11月5日	「諏訪湖創生ビジョン」に係る意見交換実施（併せてアンケート用紙を配布）	NPO法人ちやいるどぶっと 信州高校生プロジェクト事業参加高校生ほか
14	「諏訪湖創生ビジョン」策定に向けた地域懇談会	2018年1月9日	諏訪湖創生ビジョン（案）に関する意見交換	天竜川流域関係団体等 天竜川流域地域住民 国・市町村関係
15	第3回諏訪湖創生ビジョン会議地域懇談会	2018年1月23日	諏訪湖創生ビジョン（案）に関する意見交換	諏訪湖環境改善行動会議メンバー 諏訪湖に関する有識者 地域住民
16	パブリックコメント	2017年12月28日～ 2018年1月26日	諏訪湖創生ビジョン（案）に関する意見募集	県民

付属資料 2  
諏訪湖創生ビジョン策定後  
5年間の取組み

## 諏訪湖創生ビジョン 5年間の主な取組み

諏訪湖創生ビジョンでは、「人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖」を長期ビジョン（20年後（2038年）の目指す姿）として掲げ、これを実現するため、水環境保全やまちづくり等の視点ごとに4つの姿を目指すこととしています。

<長期ビジョンを実現するために目指す姿>

- ・ 清らかで人々が親しむことができる湖水・湖辺
- ・ 多種多様な生き物を育む湖
- ・ 人々が憩い、やすらげる水辺空間
- ・ 諏訪湖の恵みを知り、育つ学びの場

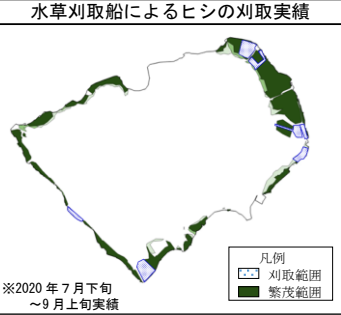


2018年（平成30年）の諏訪湖創生ビジョン策定後、これらの目指す姿の実現に向け、県、流域市町村、住民、事業者、関係機関の協働によりさまざまな改善策が進められてきました。5年間の取組みの内容とその評価及び今後の方向性は下記のとおりです。

### (1) 水質保全

#### 課題

- ・ 全りんが環境基準を達成、COD及び全窒素は未達成
- ・ 貧酸素水域の拡大
- ・ ヒシの大量繁茂による、沿岸域での貧酸素、生態系への悪影響



対策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
ア 水質保全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 透明度の目標値の設定</li> <li>・ 沈殿ピット、植生水路による栄養塩類除去</li> </ul> 	<p><b>透明度の目標値</b> 現状 1.2m、目標 1.3m 以上</p> <p><b>諏訪湖まるまるゴミ調査実施数</b> 3回</p> <p><b>沈殿ピットでの除去量</b> 上川河口 V=8,600 m<sup>3</sup></p> <p><b>植生水路整備延長</b> L=1,620m</p> <p><b>覆砂の拡大</b> 延べ 8,190 m<sup>2</sup></p>	<p>取組みは計画どおりに進んでおり、水質は中長期的には改善してきているが、全りん以外は環境基準未達成。漂着ゴミ等の対策も求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沈殿ピット、植生水路による栄養塩類除去</li> <li>・ 諏訪湖まるまるゴミ調査</li> <li>・ 覆砂の拡大</li> </ul>
イ 貧酸素対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 底層溶存酸素（DO）の環境基準の当てはめ検討</li> <li>・ 地下水の湖内への流入や湖底形状の調査</li> <li>・ 重点的に貧酸素を解消するエリアの設定</li> <li>・ 機械力を活用した取組み（ナノバブル）の実証</li> <li>・ 覆砂の拡大</li> </ul> 	<p><b>溶存酸素測定</b> 湖内全域：22地点（R1まで） 連続測定：5地点で実施中</p> <p><b>底質性状調査</b> 7地点で実施中</p> <p><b>覆砂の拡大</b> 延べ 8,190 m<sup>2</sup>（再掲）</p>	<p>取組みは計画どおりに進んでいるが、夏場を中心に、湖底やヒシ繁茂場所で貧酸素化が見られることから、貧酸素水塊の挙動等に関する調査研究の実施、貧酸素対策の結果の活用が求められている。</p> <p><b>新</b>底層溶存酸素（DO）の環境基準当てはめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶存酸素測定</li> <li>・ 底質性状の調査研究</li> <li>・ 覆砂の拡大（再掲）</li> </ul>

対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
ウ ヒシの大量繁茂対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>水草刈取船や手作業によるヒシの刈取り</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">水草刈取船によるヒシの刈取実績</p>  </div> 	<p><b>水草刈取船</b>  刈取量：631t/5か年平均  （目標：510t以上）  刈取面積：42ha/5か年平均  諏訪湖面積の3%  繁茂面積の23%</p> <p><b>諏訪湖創生ビジョン推進会議  構成員の手作業による除去</b>  累計 38.2t</p> <p><b>自治体、関係団体による除去</b>  累計 46t</p> 	<p>水草刈取船によるヒシ除去は目標を上回る実績を上げているが、繁茂状況は横ばい傾向が続いている。今後5年間でヒシ除去量の倍増を目指したい。</p> <p><b>新</b>効果的なヒシ除去方法の調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水草刈取船等によるヒシ除去</li> <li>官民連携による手作業によるヒシ除去</li> </ul> <p><b>新</b>ヒシ除去量の増加に向けた新たな仕組みづくり</p>


## (2) 生態系保全

### 課 題

- ・エゴ（入江状の水生植物帯）の再生など生物多様性に配慮した護岸整備が必要
- ・湖畔における動植物の調査が不足
- ・ワカサギなどの漁獲量の減少

対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
ア 多様な生息・生育基盤の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>エゴの再生に向けた調査研究</li> <li>湖沼法に基づく湖辺環境保護地区の指定に向けた検討</li> <li>多面的・公益的機能の発揮に向けた森林整備</li> </ul> 	<p><b>間伐・植栽による森林整備の実施</b>  （県・市町村・森林組合）  整備面積 延べ 2223.2ha</p>	<p>エゴの再生や湖辺環境保護地区の指定等に向け、動植物モニタリング調査を進めているが、具体的な動きには至っていない。県・市町村等の連携により森林整備を推進し、土砂の流出を抑えていくことも必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究、検討</li> <li>主伐、再造林など適切な森林整備の実施</li> </ul>
イ 水生動植物の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性を創出する護岸整備</li> <li>湖畔における動植物モニタリング調査の実施</li> <li>オオクチバスやブルーギルなど外来魚の駆除</li> </ul> 	<p><b>動植物モニタリング調査の実施</b>  エビモ（年1回）  シジミ（年3回）  メガネサナエ（年3回）</p> <p><b>電気ショッカー漁による外来魚駆除の実施</b>  駆除量：14.2t</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">メガネサナエ</p>	<p>取組みは計画どおりに進んでいるが、生態系については成果が見えにくく、もっと力を入れるべきという意見も寄せられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動植物モニタリング調査の実施</li> <li>外来魚の駆除</li> </ul>




対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
ウ 漁業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シジミの生息環境となる覆砂</li> <li>・貧酸素対策などによる漁場環境の改善</li> <li>・カワアイサ等肉食性鳥類及び外来魚対策の推進</li> </ul>  <p>覆砂場所(湖岸通り区)で見つかった淡水シジミの稚貝(2019年11月21日)</p>	<p><b>シジミの生息環境となる覆砂</b> 延べ 8,190 m<sup>2</sup> (再掲)</p> <p><b>魚食生鳥類対策</b> 花火、ドローン等を利用した追払いの実施</p> <p><b>ワカサギ資源量調査</b> 稚魚ネットや魚群探知機によるワカサギ資源量調査の実施及び漁協へ情報提供と助言</p> <p><b>有用水産資源増殖技術開発</b> ワカサギの新たな採卵モデルの開発とテナガエビ放流用稚エビの大量生産技術の開発等</p>	<p>取組みを進めているが、漁獲量減少に歯止めがかからない状況にある。生息量を適正に把握し、原因究明を図るとともに、生息しやすい湖内環境について研究を進める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワカサギの新たな採卵モデルの開発等</li> <li>・魚食性鳥類追払い、外来魚駆除対策</li> <li>・覆砂場所周辺の動植物等調査</li> <li>・覆砂の実施によるシジミの生息場所の創出</li> <li>● 魚類の生息場所・産卵場所の整備研究</li> <li>● 諏訪湖環境研究センター(仮称)による湖の生物量と水質に関する研究</li> </ul>



### (3) 湖辺面活用・まちづくり

#### 課 題

- ・安全に親水利用できる湖岸が少ない。
- ・土砂堆積により船舶運航等に支障
- ・安全なサイクリング・ウォーキングが困難
- ・諏訪湖の魅力の活用が不十分

対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
ア 水辺整備と湖辺面の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂浜の整備</li> <li>・堆積状況に応じた治水浚渫、船舶運航確保に向けた治水浚渫</li> <li>・カフェの設置など河川空間のオープン化に向けた支援</li> </ul>  <p>流入河川(上川)における治水浚渫</p>	<p><b>覆砂(遠浅砂浜の試行等)</b> 延べ 8,190 m<sup>2</sup> (再掲)</p> <p><b>堆積状況に応じた治水浚渫</b> 流入河川河口部等 10万m<sup>3</sup>/5年</p> <p><b>湖底調査</b> H30実施</p> <p><b>諏訪湖まるまるゴミ調査実施数</b> 3回(再掲)</p> <p><b>河川空間のオープン化に向けた検討</b> 諏訪湖かわまち上諏訪地区協議会、下諏訪町ランドデザイン策定委員会の開催等</p>	<p>湖底調査(H30)や治水浚渫を行っているが、諏訪湖が年々浅くなることへの不安の声も大きい。河川空間のオープン化に向けた取組みも進められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流入河川河口部等における治水上の堆積土砂の除去</li> <li>・効果検証及び監視のための湖底調査の実施(R7)</li> <li>・水浴場等整備を見据えた砂場造成</li> <li>● 候補地：下諏訪町赤砂崎</li> <li>・UDC信州をハブとした諏訪湖周のまちづくり</li> </ul>




対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
イ 「諏訪湖周サイクリングロード」整備推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイクリングロードの整備</li> <li>休憩施設「小径（こみち）の駅」の整備</li> </ul> 	<p><b>サイクリングロードの整備</b> 7.2km (R4.9 未) 全体：15.7km</p> <p><b>サイクリングを楽しめる環境づくり</b> 案内標識の整備、安全に走行するためのルール検討</p>	<p>諏訪湖周サイクリングロードの整備は計画どおり着々と進んでいる（R5 完了予定）。今後は休憩施設の整備や安全に走行するためのルール等の情報発信が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイクリングロードの整備</li> <li><b>新</b>小径の駅（サイクルオアシス）の整備、安全安心な利用についての情報発信等</li> </ul>
ウ 観光活性化のための整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドサイクリングやカヌー等、民間団体等との連携</li> <li>芸術・文化施設との連携</li> <li>SNSなどによるフォトスポットの情報発信</li> </ul> 	<p><b>Instagramを利用したフォトコンテスト実施</b> 応募総数 470 点 (R2)</p> <p><b>民間団体等との連携</b> スワコエイトピークストライアスロン大会 (R4) スイッチ(諏訪湖一周サイクリング R3~) カヌー等民間団体の活動や「諏訪湖まちじゅう芸術祭」との連携（「諏訪湖の日プロジェクト」に位置付け PR)</p> 	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、民間団体等との連携により、工夫しながら取組みを進めることができている。トライアスロンやカヌー等、新たな諏訪湖の魅力発信に期待が寄せられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間団体等との連携</li> <li>芸術・文化施設との連携</li> <li>SNSなどによる情報発信</li> </ul>

#### (4) 調査研究・学びの推進

##### 課 題

- ・水質浄化や生態系に係る研究課題が山積
- ・調査研究、情報発信や環境学習のための拠点の整備が必要
- ・住民の諏訪湖に対する関心の低下

対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
ア 水質や生態系の保全に関する調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質や生態系の保全に関する調査研究</li> </ul> 	<p><b>調査研究の実施</b> 覆砂場所モニタリング (水質 4 地点、底質 4 地点) (再掲)</p> <p>覆砂場所生物モニタリング (シジミ 6 地点) (再掲)</p> <p>水質モニタリング (再掲) 等</p>	<p>取組みは計画どおりに進んでいるが、まだ解明できていないことも見受けられるため、継続的な調査研究が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究</li> <li>環境学習を軸とした希少トンボ（メガネサナエ）の保全活動を展開</li> </ul>

対 策	主な取組み	取組み実績	取組みの評価と今後の方向性
イ 諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置検討</li> </ul>  <p style="text-align: center;"><b>SUWAKO ペディア</b></p>	<p><b>設置検討</b>          諏訪湖環境研究センター（仮称）あり方検討会の開催          R6.4 開設に向け設計改修工事実施</p> <p><b>関連事業の実施</b>          諏訪湖の案内人（仮称）の検討（R3,R4）          「SUWAKO ペディア」、諏訪湖を学ぶ講演会の開催（R2~R4）</p>	<p>諏訪湖環境研究センター（仮称）については、令和6年4月開設に向け、改修工事を実施中。調査研究の強化や学びの拠点としての役割が期待されている。</p> <p><b>新</b> 高度専門的な調査研究強化（水草対策、マイクロプラスチック等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪湖の案内人（仮称）育成等による環境学習の推進</li> </ul>
ウ 学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携による「諏訪湖読本」の作成</li> <li>環境教育プログラムの作成</li> <li>諏訪湖の案内人の育成</li> <li>「諏訪湖の日」の制定検討</li> <li>「諏訪湖学習ツアー」の実施</li> </ul>  	<p><b>「諏訪湖読本」の作成</b>          小学生用、一般用を作成し、管内小学校（3,4年生）、中学生等に配布</p> <p><b>「諏訪湖の日」の検討</b>          10月1日に決定（R1）          「諏訪湖の日プロジェクト」の実施（R2~）、「諏訪湖の日フォーラム」の開催（R3~）</p> <p>※環境教育プログラムの作成及び諏訪湖の案内人の育成は上記イの中で検討</p> 	<p>取組みは計画どおりに進んでいるが、「諏訪湖環境研究センター（仮称）」を拠点として、環境学習のさらなる推進が期待されている。また、「諏訪湖の日」の知名度を向上させ、取組みの活性化や団体間連携を強化することも今後の課題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪湖の日や諏訪湖の現状・課題等の周知、民間団体の活動との連携強化</li> </ul>
エ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪湖創生ビジョン推進会議の設置（8回開催）</li> </ul>		

付属資料 3  
「諏訪湖の日」制定の経緯

## 1. 経過

諏訪湖創生ビジョン（2018年（平成30年）3月策定）に「諏訪湖の水環境保全等に対する住民意識の向上のため『諏訪湖の日』の制定について検討します」と位置付けたことから、「諏訪湖の日制定検討ワーキンググループ」を立ち上げ、制定について検討しました。

### 【参考：背景（諏訪湖創生ビジョンより）】

- かつての治水を目的とした護岸整備等により、親水性が低くなり、湖と流域住民との関係が疎遠になった時期があった。
- アオコが発生するなど諏訪湖の水質が悪化したときには、住民の諏訪湖に対する関心が非常に高くなったが、水質が改善傾向に向かうにつれ、住民の諏訪湖浄化に対する関心が下がっている。
- 流域住民、県民、観光客の諏訪湖への関心を高め、諏訪湖の恵みをより多くの人たちが享受できるように、諏訪湖創生に対する気運を醸成していくことが求められている。

## 2. ワーキンググループでの検討状況

### ■ 【「諏訪湖の日」の制定の検討】ワーキンググループメンバー

団体名	氏名
個人	上原 幸人
諏訪湖周水路復活漕ぎあるきプロジェクト	百瀬 篤
諏訪湖八ヶ岳自転車復活推進協議会	小口 良平
諏訪市セーリング協会	横山 真
諏訪湖ロータリークラブ	森山 広
諏訪広域連合	平出 昌寛
諏訪広域連合	田中 保輔
諏訪市企画政策課	西澤 菜都美
岡谷市企画課	味澤 勝一
下諏訪町総務課企画係	高木 浩
諏訪地域振興局企画振興課	小口 秀昭
諏訪地域振興局企画振興課	野本 和弘
諏訪地域振興局企画振興課	伊東 笑子

(13名)

## ■ ワーキンググループ開催状況

回	日 時	参加者
第1回	2018年9月28日 13:30~15:40	7名
第2回	2018年11月14日 10:00~12:00	10名
第3回	2018年12月26日 10:00~12:00	13名
第4回	2019年2月12日 13:30~15:40	11名
第5回	2019年5月13日 9:00~11:10	9名

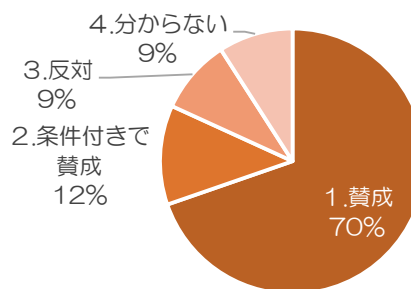
## ■ 諏訪湖創生ビジョン推進会議構成員へのアンケート調査

- ◆ 実施期間 : 2019年(平成31年)3月29日(金)から4月12日(金)まで
- ◆ 対象者 : 諏訪湖創生ビジョン推進会議 全構成員(62団体・個人)
- ◆ 回答数 : 33(うち団体数 26)
- ◆ 質問項目 : 制定の賛否、期日、キャンペーン期間実施の賛否・時期、取組内容等

## 3. アンケート集計結果

設問① 諏訪湖の日の制定についてどのように考えますか？(一つだけ回答)

項目	回答数
<b>1.賛成</b>	<b>23</b>
2.条件付きで賛成	4
3.反対	3
4.分からない	3
合計	33



設問①-1 2.条件付きで賛成の理由(自由記載)

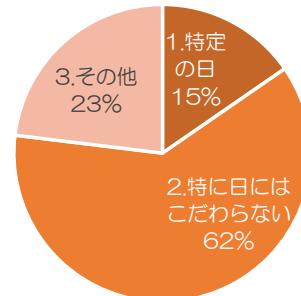
- ◆ 本当に必要なのか？制定することによってどう変わるのか？制定の位置付け(趣旨、目的)が諏訪湖に感謝の日？本質は水環境保全の住民の意識向上？のどちら？条例とかなの？単なるそういう日なの？効果があるの？その辺の詰めが必要
- ◆ 他の諏訪湖関係の活動との調整を十分に行い、関係者の負担増を避ける。
- ◆ 継続的・日常的な行動の醸成に資するものであること。
- ◆ 今実施しているイベントに「諏訪湖の日」の冠がつくだけなら反対

設問①-2 3.反対の理由（自由記載）

- ◆ （設問⑦の自由記載欄に記載：以下抜粋）  
「諏訪湖の日」を制定したことにより縛られてしまい「ねばならない」が先行することも危惧される。一年を通じて観光客を含め特に市民がゆっくり、のんびり、水に親しみながら雄大な景色を楽しめる場所として諏訪湖があってほしい。だから敢えて「諏訪湖の日」にこだわらず、「諏訪湖への関心をいかに日常に持ち込むか」を考えた方がよいのでは。  
「諏訪湖の日」の制定の良さを一概に否定するものではないが、少子高齢化の時代であり、「〇〇日」制定が現実及び将来の課題解決への起爆剤という考えから脱却する発想を持ちたい。諏訪地域には諏訪湖に関心のある団体が沢山あり、それらの団体が主催する行事を振興局は広く発信する手助けや、大きい行事を振興局がする代わりに財政支援をしたりして、「民」の自発的活動をいかに支援できるかを「官」は考えるべきでは。「諏訪湖の日」を制定することは簡単だが、それをどのように継続していくのかということも決める段階で考える必要があるのでは。
- ◆ 日を制定して何を行っていくのかよく分からない。日を制定することに何のメリットがあるか分からない。
- ◆ 諏訪湖の日は不要、一部の意見だけで既成事実化することに反対

設問② 「諏訪湖の日」を制定するとしたら、いつが適当ですか？（1つだけ記載）

項目	回答数
1.特定の日	4
<b>2.特に日にはこだわらない</b>	<b>16</b>
3.その他	6
未回答	7
合計	33



設問②-1 「1.特定の日」の期日及びその理由（自由記載）

- ◆ 5月29日：諏訪湖一斉清掃のうち5月の開催日。市民が諏訪湖畔を掃除することから関心を持たれやすい
- ◆ 7月7日：ラッキーセブンで覚えやすい。
- ◆ 9月23日：諏訪湖一斉ウォークの日
- ◆ 10月1日：諏訪湖流域下水道事業一部供用開始の日。暑くもなく寒くもなく、行事に取り組みやすい。また諏訪湖の浄化にとって意義ある日であるため。

設問②-2 「3.その他」の内容（自由記載）

- ◆ 週間・月間でもいいのではないかと。
- ◆ 日ありきでなく、諏訪湖の日に何をするかで変わる。意味のない諏訪湖の日ならいつでもいい。
- ◆ 諏訪湖の行事（花火大会等）に合わせた制定とし、観光誘致を推進
- ◆ ヒシ発生の最盛期又はヒシ除去開始日

設問③-1 ②の設問で「2又は3」と回答した方にお聞きします。諏訪湖の日の時期はどのような時期が適当ですか（1つだけ回答）

月	回答数	理由
3月	1	・春の出水までの時期に（ゴミゼロの日にとらわれない）
5月	3	・イメージ的には初夏 ・観光（グリーン）シーズンを控え、諏訪湖周辺も賑わうため
7月	3	・暑く親水しやすく8月より行事が少ないから ・市民、住民が諏訪湖に集まりやすく、諏訪湖の水に関心を持てる（水の汚れを実感できる）時期だから ・川の日が7月7日で海の日が7月第3月曜日。川と海をつなぐ水の流れをイメージして第2週くらいにしたらどうか。
8月	3	・花火大会が有名なので ・水の日、お舟祭り、花火大会など大きなイベントがあるため ・観光客も参加できるイベントが開催できる時期。例えば8月の花火大会など
9月	1	・諏訪湖湖上火火大会も終わり、水温も下がりつつ、ヒシ・アオコも減少・静けさが戻り諏訪湖を見直すいい季節だと思います。
10月	4	・諏訪湖マラソンの開催日であれば地元の方々だけでなく、多くの方々に情報発信や考えていただく機会が提供できると思うため ・最近の夏は異常に暑く、ゴミ拾いなどの行事を行うには爽やかな秋の気候が最適 ・諏訪湖マラソンや一斉清掃があり、多くの人に周知しやすく、春より準備期間が取りやすい
11月	1	・気候もほぼ良くて関連行事が少ない月
春～秋	1	・イベントを行うのによい季節がいい
5・10月	1	・諏訪湖一斉清掃の時期に合わせたらどうか
6～7月	1	・親水時期として無理なく、夏休みの始まりを控えた時期

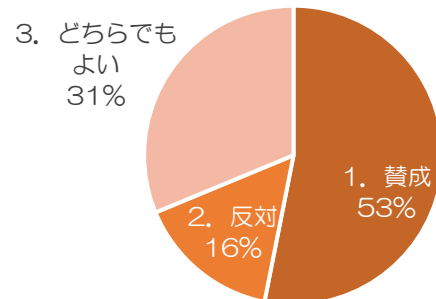
設問③-2 「2. その他の内容」について（自由記載）

回答なし



設問④ 諏訪湖の日を制定する場合、諏訪湖創生のキャンペーン期間（週間・月間）に関心のある団体等が制定の趣旨に沿ったイベントを行うことについて、どのように考えますか。（1つだけ回答）

項目	回答数
1.特定の日	4
<b>2.特に日にはこだわらない</b>	<b>16</b>
3.その他	6
未回答	7
合計	33



設問④-1 「1.賛成」の理由（自由記載）

- ◆ 綺麗にしようとする意識が高まる。
- ◆ 各団体の連帯と活動を広くアピールできる機会と共に、活動のスキルアップも期待でき、より一層諏訪湖に対して関心・浄化の啓蒙に繋がると思います。
- ◆ 良いことだと思う。
- ◆ 現在多くの団体による様々な取組がある。期間を設けることでそこに合わせられる活動もあると思う。
- ◆ 賛成であるが、イベント実施が主たる目的にあることを危惧します。参加者が主旨を理解され、参加いただけることを期待します。
- ◆ 広く周知するためにも必要
- ◆ 創生に対する住民の関心が高くなる。
- ◆ 啓発は必要である。（2件）

設問④-2 「2.反対」の理由（自由記載）

- ◆ 各団体の活動を年間に割り振りしてスケジュール化する（月間。週間と言った短期間限定しないが、月ごとの特徴を持たせる）
- ◆ 現在諏訪湖一斉清掃及び河川愛護事業にも参加しているので十分だと思う。
- ◆ 毎月の同じ日にしたらどうか。
- ◆ 日の制定でよい。その前後にイベントをするのは問題ない。
- ◆ 趣旨が別

設問⑤ ④の質問で「1又は3」と回答した方にお聞きします。どのようなイベントが実施されることを期待しますか。

項目	回答数	具体的な内容
諏訪湖の浄化・美化活動	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間中自主的なごみ拾い活動を促す。 ・ごみ拾い ・魚の放流</li> <li>・一斉清掃、諏訪湖周3市町だけでなく岳麓の河川清掃も合わせられるとなおよい。</li> <li>・マイナスイメージの排除イベント</li> <li>・ごみの無い諏訪湖WGの企画と連動して、水辺のごみ調査を実施</li> <li>・家庭等でごみを拾いながら、一定距離をウォーキング</li> <li>・諏訪湖の日に合わせて、今までにない大規模に行う美化作戦（企業団体、学校、一般市民全て巻き込むくらいの）</li> </ul>
子どもが楽しめる行事	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヤック・カヌー体験講習会を行い、湖・河川を身近に感じてもらう。</li> <li>・子どもが行くということは親も同伴するので大勢の参加が見込める。</li> <li>・カヌーなど</li> <li>・既存の各種団体の取組のうち子どもたちを楽しんでもらえそうなものをピックアップする。</li> <li>・親子連れ来訪者の増加期待</li> </ul>
新たな大規模イベント	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国のカヤック、カヌーイストに声掛けて、湖上、河川で大パレードを展開</li> <li>・将来的に全国規模の知名度となるような毎年開催のイベント検討</li> </ul>
諏訪湖の観察会・学習会	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、諏訪湖創生に小さいころから関心を持ってもらう。</li> <li>・小中学生対象の観察会や学習会が必要</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1と4を合わせたような美化活動を通じて諏訪湖の生態系を学ぶなどの学習会があれば効果的と考えます。</li> <li>・大きなイベントは避けた方がよいと考えます。</li> <li>・湖畔でのミュージックフェス</li> <li>・どのような内容でも諏訪湖に関係すれば良い。</li> <li>・やみくもにイベントを企画するのではなく、「どのような成果を上げたいのか」という目標をはっきりさせてから考えるべきでないか。</li> </ul>
	41	

設問⑥ 「諏訪湖の日」を制定する場合、住民の関心を高めるためのアドバイスがあれば記載願います（自由記載）

- ◆ 諏訪湖創生ビジョン推進会議発行「諏訪湖通信」やメディアなどで、行政の取組や各団体の活動を紹介しながら、広域に「諏訪湖創生ビジョン」の取組、主旨を告知し、広く一般に関心を持ってもらう。
- ◆ 誰しも諏訪に住んでいれば、人として諏訪湖に関心は持っていると思います。しかし毎日の仕事、生活に追われ、忙しければ我々のように諏訪湖に強く関心は示さないと思います。関心があるのは我々は関係者だからだと思います。諏訪湖につながる川や側溝がくさい・汚いとなれば別ですが、諏訪湖畔を歩く人も走る人もジョギングロードが整備されているかの方が関心が高いです。現在の諏訪湖くらい綺麗ならばあまり関心もなくそれでいいと思っています。泳げる諏訪湖と言っても泳ぐよりは岡谷の水門の近くの湖畔公園で子供を遊ばせたり、小さな子供に公園の水で水遊びをさせています。諏訪湖の周りにもっと水遊びができる場所が何か所かあれば、諏訪湖でなくとも親はそれでいいのです。暑い夏に安心して安全な場所で水遊びができることを求めています。小学生は諏訪湖に近寄れるのは親

と一緒に時だけです。コイやフナを釣る子どもはいません。湖と親しむ習慣がないから関心も低いです。中学校、高校になると漕艇でもやれば諏訪湖に関心を持ちますが、水があって漕艇ができれば、諏訪湖の水が汚いと思わなくなります。諏訪湖に対しての関心は高まりません。また今くらいの水質や諏訪湖の状態であれば関心は持たれません。関心を高める必要もないのかもしれませんが。

- ◆ 標語募集、のぼり
- ◆ 子どもたちにとってゴミ拾いだけではつまらないと思うので、親子で参加して楽しめるイベントを併せて行えるとよい。
- ◆ 日ごろ諏訪湖との関連が高まるような取組が必要（諏訪湖に通ったときには自分でスタンプを押して楽しめるような諏訪湖カードなど）。自己満足ではあるが諏訪湖への愛着は深まると思う。
- ◆ 行政主導ではなく住民主導的な方策を取り入れた方が関心が高まる。
- ◆ 小中学生に関心を持ってもらえる方策がよいのでは。
- ◆ 諏訪湖浄化や利活用を考える上で重要なのは、いかにして水辺に人を呼ぶのかという点ではないか。まずは諏訪湖の周りに来てもらい、現状を知ってもらうことを大前提として企画しないと関心が寄せられず一過性のものに終わってしまい、次につながらないのではないか
- ◆ 諏訪湖の日の数週間前からテレビCM（県内ローカル）を流す。出演は地元小学生など。
- ◆ 講演会やシンポジウムなどもよいが、基本的には水辺で行う企画でないか当初の目的は達せられないのではないか。水辺で行う体験型の企画を中心に考えた方がよい。
- ◆ 楽しみながら学べるイベントを考えれば関心も高まる。
- ◆ 著名人・タレント等を巻き込めれば関心度が高まるのでは。
- ◆ 新たに大規模イベントを開催して一時的に市民の関心を喚起するという方法もあるが、それよりも今まで継続されてきたイベント（町内会での清掃や諏訪湖に関する市や県、民間のイベント等）を湖の日に集約して実施した方が、諏訪湖に一定の関心のある市民に更なる関心を向けてもらえる。

設問⑦ 「諏訪湖の日」の制定に関するご意見、ご要望があればお書きください（自由記載）

- ◆ 潜水艦のような乗り物で、今の諏訪湖の状況を見ていただき、今後どう変わっていくかを観察できるようにする。なぜそのようなことを考えたかという、取り組む側が今以上に真剣に取り組まなければ、今の成果が明確にならないから。
- ◆ 唐突に「諏訪湖の日」を制定しても、一方的な制定になってしまう気がします。やはり湖周広域（山麓、上下流域）に諏訪湖の現状・存在価値を認識してもらいながら、機運の高まりを判断しつつ好機を見出すのが良い。
- ◆ 本当を言えば、諏訪湖の日はなぜ必要なのか分かりません。将来に未来に諏訪湖を残すならもっとやることがあるはず。浅くなっている問題、ヒシの繁茂の状態や、今の諏訪湖をどう将来に残すかの方法です。一般の人は諏訪湖がどうなるかが身近な問題として考えられないのです。富士山の登山道にゴミを捨てる人が多くて、ゴミが散乱しているとなれば登山者のマナーが悪い、環境破壊だ。世界遺産なのにと全国からボランティアが駆けつけてゴミを拾い、登山者もゴミを拾いマナーも向上し、瞬く間にきれいになるでしょう。これは富士山の価値観です。今の諏訪湖が汚い諏訪湖からここまできれいになり、ゴミやヒシの問題を除けばこのレベルで十分なのかもしれません。関心を持って水環境保全等に対する住民意識の向上をどのレベルにするのか、どんな諏訪湖にするのかが分かりません。昔の汚い諏訪湖に戻っているならば必要なのかもしれません。諏訪湖の日を制定して諏訪湖に人を集めるなどの活性化ならばそれはそれです。住民意識が低いから制定するのでしょうか？今、行政として県が取り組まなければならないのは、諏訪湖が浅くなっている問題や、諏訪湖の水流など民間ではできないことをやっていただきたい。また観光や地域住民の人がもっと諏訪湖を利用する方法や親しみやすい諏訪湖を考えるビジョンを作り（たとえば諏訪湖遊べるマップ、諏訪湖周インスタ映えスポットマップ etc）など諏訪湖に人が来てもらうことに力を入れた方がいいと思います。つまりこれも価値観を高めることです。名前ばかり諏訪湖の日なんてつけても人は集まって来ない、関心は高まらないと思います。
- ◆ （設問①－２ 反対意見 全文）

当初私は「諏訪湖の日」があるのは単純に良いことだと思いました。しかしWGのご意見を読ませていただいてから制定に対し少し疑問を持ちました。時期とすれば5月頃がいいな～などと考えていましたが、観光シーズンが始まり、行事は目白押し。主催者の負担が大きい割には参加者は分散しがち。「諏訪湖の日」を制定したことによって縛られてしまい、「ねばならない」が先行することも危惧されます。年間行事の表を見るとこんなにたくさん行事があるのだと改めてびっくりしました。私は一年を通して、観光客を含め、特に、市民がゆっくり、のんびり、水に親しみながら雄大な景色を楽しめる場所として諏訪湖があってほしいと思っています。そこで、ある特定の日、にお祭り騒ぎのようなことをする必要はないな～と感じ始めました。諏訪湖への関心がその日だけに終わってしまう、年に一度思い出したような形になりかねない。だから、敢えて「諏訪湖の日」にこだわら

ず、「諏訪湖への関心をいかに日常に持ち込むか」を考えた方が良いのではと思います。小さな行事で良い。季節も限定せず、内容も対象も様々。折々に市民に発信していく。できることを息長く継続することが大事ではないでしょうか。そこに居るだけでホッとできる場所としての諏訪湖。それにはゴミが無い、きれいな環境は不可欠。アダプトプログラムでの活動も感謝ですが、ゴミ拾いは誰でもできること。ゲームやスポーツ感覚でゴミ拾いを楽しくイベント化した行事も最近開催されたことがあります。その辺りで官民の知恵が合流するといいいかな～と思います。「諏訪湖の日の制定」の良さを全面的に否定するものではありませんが、少子高齢化の時代です。「〇〇日」制定が現実及び将来の課題解決への起爆剤という考えから脱却する発想を持ちたいと思います。諏訪地域には諏訪湖に関心のある団体がたくさんあります。それらの団体が主催する行事を振興局は広く発信する手助けや、大きい行事を振興局がする代わりに財政支援をしたりして、「民」の自発的活動をいかに支援できるかを「官」は考えるべきではないでしょうか。「諏訪湖の日」を制定することは簡単ですが、それをどのように継続していくのかということも決める段階で考える必要があると思います。

- ◆ イベント行事を他のイベントとは異なる形でのコンセプトを強調できるようなプロデュースを望みます。
- ◆ 制定が目的でなく、諏訪湖の日制定を通じて住民の皆様や観光のお客様が諏訪湖について考え、あるべき姿について考え、行動に移すきっかけになればと考える。
- ◆ 湖周の行政が協力一致した運営等をお願いしたい。
- ◆ 継続的にニュース等で取り上げてもらうには、毎年行う行事の開始日がよいのでは。
- ◆ 諏訪湖環境を悪化させている要因を科学的に明確にし、その対策を立てて日常的・継続的に取り組むことが大切。諏訪湖の日を制定すると、イベント的な取組に力を割くことになり、それは諏訪湖がきれいになってからやればよい。諏訪湖がきれいになり周辺の地域も住みやすい状況が生まれ、その結果として諏訪湖の日を作ろうという合意形成がなされるのであれば制定には賛成。今は諏訪湖の日ありきで話が進んでいるようであり、順序が逆だと考える。WGを作って検討することと制定することは別の話 行政、民間等関係団体のみが盛り上がるのではなく、地域住民が取組の趣旨を理解し、諏訪湖創生に対して積極的に関わっていけるような仕組みを作れるとよい。併せて一過性でなく継続的な取組ができるものが望ましい。

※個人が特定される可能性のある記載は省略しました。

## ■ ワーキンググループ「案」

### 1. 制定の有無

- 「諏訪湖の日」を制定する

### 2. 制定の趣旨・目的

- 諏訪地域の宝である諏訪湖に感謝し、諏訪湖の恵み<sup>※1</sup>を将来にわたり持続的に享受していくため、諏訪湖を守り<sup>※2</sup>、活かしていく<sup>※3</sup>機運の醸成の機会として、「諏訪湖の日」を定める。

※1 恵み…自然、景観 など

※2 守り…浄化、美化、利水浚渫 など

※3 活かす…観光、レジャー、学び、健康づくり など

### 3. 名称

- 「諏訪湖の日」とする

### 4. 取組主体

- 「諏訪湖創生ビジョン推進会議」とする

### 5. 期日

- 「10月1日」とし、その前後の概ね9月・10月を取組期間とする。
  - ◆ 10月1日は諏訪湖流域下水道の一部供用を開始し、諏訪湖浄化に向けて第一歩を踏み出した記念すべき日
  - ◆ 暑さやヒシ繁茂、花火等の行事が落ち着き、湖辺面で活動しやすく、一斉清掃も例年実施されている。また、諏訪湖周でのイベントが多く予定され、諏訪湖に関心がない層や観光客への発信に最適な時期
  - ◆ 当日だけでなく、前後の概ね9月から10月に行う、趣旨に沿った取組を「諏訪湖の日」関連行事として認定し、パッケージで発信

### 6. 取組みの内容

- 「一人でも多くの人々が、諏訪湖に感謝し、将来にわたり守り、活かしていくための幅広い取組」を実施



#### 4. 「諏訪湖の日」宣言文



### 「諏訪湖の日」宣言文

日本列島に人類が到達した、遙か遠い昔。  
幾多（いくた）の川を渡り、峰を越え、  
ようやくこの地にたどり着いた太古の人々は  
峠から諏訪湖を見下ろした時、  
どれほどの感動と喜びに包まれたことでしょう。

その日から数万年もの長きにわたり  
諏訪湖はわたくしたちに恵みをもたらし、  
安らぎを与え、  
そして祈りの対象でもありました。

諏訪湖はそこに住む人々の  
人生の一部であり、  
心のよりどころでもあったのです。

しかしそんな諏訪湖は  
わずかこの半世紀ほどの間に、  
すっかりわたくしたちの、  
日々の暮らしから遠のいてしまいました。

アオコで覆われた湖と  
そこに住む生き物たちの声なき声は、  
人々の意識の中に暗い影を落としていました。

けれど人間は考え、  
そして創造することができる存在です。





水清き諏訪湖を取り戻すため、人々は立ち上がりました。  
1979年10月1日には  
諏訪湖流域下水道の一部供用が開始。

諏訪湖の浄化に向けた  
長い長い戦いが始まったのです。

昨年5月に発足した  
諏訪湖創生ビジョン推進会議は、  
「人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖」  
を目指しています。

それは  
学び、親しみ、思いを寄せる場所であった  
「母なる諏訪湖」を取り戻し、  
そして未来の世代に引き継ぐための挑戦なのです。

わたくしたちは、一人一人が諏訪湖に関心を持ち、  
できることに取り組むとともに、  
様々な団体がともに手を携えて、  
わたくしたちの新しい諏訪湖を創生していかなければなりません。

この想いのもと  
諏訪湖の歴史に新たな一歩を刻むことを決意して、  
わたくしたち諏訪湖創生ビジョン推進会議は  
今、ここに、  
諏訪湖創生の原点ともいうべき10月1日を  
「諏訪湖の日」と宣言いたします。

諏訪湖創生ビジョン推進会議



付属資料 4  
「諏訪湖創生ビジョン」  
ロゴマーク入賞作品

## 1. ロゴマーク募集概要

「諏訪湖創生ビジョン」の取組を県民のみなさまにより分かりやすく、親しみやすく伝えるとともに、ビジョン達成に向けた機運の醸成を図ることを目的として、「ロゴマーク」のデザインを募集しました。

### ◆ 募集作品

「諏訪湖創生ビジョン」ロゴマーク

### ◆ 募集期間

2019年（令和元年）5月24日～7月12日まで

### ◆ 応募数

応募作品数 61点

応募者 39名（うち個人 37、団体 2）

<応募者の属性>

年齢	応募数
10代	1
20代	5
30代	4
40代	5
50代	8
60代	8
70代	5
80代	1
団体	2
計	39

地域	応募数
諏訪管内	7
県内	2
県外	30
計	39

### ◆ 入賞作品

最優秀賞（採用作品） 1点

優秀賞 5点


審査の結果、次の入賞作品が決定しました。

## 2. ロゴマーク入賞作品

### ■ 【最優秀賞】（1点）

作品	
デザインの趣旨	<p>諏訪湖を抱える山をモチーフとし擬人化して、親近感を強調しました。 また、山は諏訪湖周辺の車山、霧ヶ峰、八ヶ岳などと、日本アルプスのある自然豊かな長野県を意味し、諏訪湖は、ハクチョウ、シジミ、ワカサギと組合せ水質が改善され、多種多様な生き物が生まれ、人と生き物が共存し、誰もが訪れたい諏訪湖をイメージしています。</p>
受賞者	天野 穂積（静岡県静岡市）

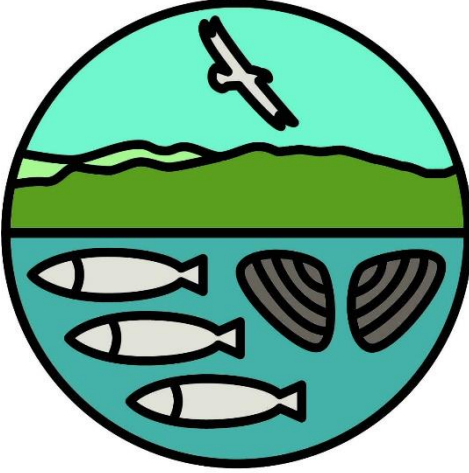
■ 【優秀賞】（5点）

<p>作 品</p>	 <p>The logo features a blue water droplet shape. Inside the droplet, there are stylized white elements representing a fish, a bird, and a person. The droplet is surrounded by a circular path with leaves, suggesting a cycle or flow.</p> <p><b>SUWA CREATION VISION</b></p>
<p>デザインの趣旨</p>	<p>諏訪湖創生ビジョンの要とも言える「水質保全」「生態系保全」をテーマに「諏訪湖の清らかな水」を中心に「わかさぎの群れ」「湖畔に集まる鳥」の要素を組み合わせデザインした。 魚と鳥が水の周りを回るような動きをもたせ、いつまでも自然の美しさが循環し続けられるようにと願いを込めた。</p>
<p>受賞者</p>	<p>高橋 祐一郎（東京都渋谷区）</p>

<p>作 品</p>	 <p>The logo is a stylized line-art illustration of a landscape. It shows a mountain peak, a sun or moon, a fish, and a person. The elements are connected by a single continuous line.</p> <p><b>SUWAKO 創生</b></p>
<p>デザインの趣旨</p>	<p>木も花も魚も暮らしが一本の線につながるどころ諏訪湖の湖影が現れています。人が集い交流の拠点として自然へ畏敬の念と共生の豊かさと楽しさをもったみんなで考え取り組む、継続の「輪」をイメージしています。</p>
<p>受賞者</p>	<p>永田 康二（大阪府富田林市）</p>

<p>作 品</p>	
<p>デザインの趣旨</p>	<p>諏訪湖の形と「S」の文字を基調に、人々が輪を創り、その中心に「諏訪湖」がある姿で、諏訪湖創生ビジョンを象徴的に表現しました。緑は大地と青葉、水色は湖面と清流、橙色は観光の光で豊かな自然と風土に恵まれた諏訪湖を明快にイメージしました。現代的で、シンプルで、親しみやすく、多くの人に長く愛されるデザインです。また、縮小、単色、白黒にも耐えられ、いろいろと多用途な使い方ができます。</p>
<p>受賞者</p>	<p>工藤 和久（青森県弘前市）</p>

<p>作 品</p>	
<p>デザインの趣旨</p>	<p>諏訪湖の頭文字「S」をアレンジしました。したしみやすいキャラクターマークのなかに小さいサカナ、大きなサカナ、エビ、水草をえがきました。水流や気泡を意志的に使用して、諏訪湖創生の取り組みへの意欲をわかりやすくアピールすることを目指しました。</p>
<p>受賞者</p>	<p>宮川 さやか（長野県長野市）</p>

<p>作 品</p>	 <p>諏訪湖創生</p>
<p>デザインの趣旨</p>	<p>水質保全により、様々な魚やシジミといった水の中の生き物が生息できる環境になり、これにより鳥などが集まります。      こうした環境を保全することは容易ではなく、また長きにわたりますが、生態系が維持され、美しい景観を作り、人を癒してくれる財産となることをロゴにあらわしました。</p>
<p>受賞者</p>	<p>横井 美香（愛知県あま市）</p>



付属資料 5  
諏訪湖創生ビジョン  
推進会議の実施状況

■ 諏訪湖創生ビジョン推進会議 実施状況

	会議名	開催時期	会議概要
1	第1回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2018年 5月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諏訪湖創生ビジョンの概要説明</li> <li>○諏訪湖創生ビジョン推進会議の設立について</li> <li>○ワークショップ</li> </ul>
2	第2回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2019年 3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諏訪湖創生ビジョン推進会議会長について</li> <li>○水環境保全部会の取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動状況</li> <li>・平成30年度諏訪湖のヒシ繁茂状況</li> <li>・覆砂場所のモニタリング調査</li> <li>・諏訪湖Cゾーンの地下水調査</li> <li>・ナノバブルによる貧酸素及び底質改善実証実験</li> </ul> </li> <li>○湖辺面活用・まちづくり部会の取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動状況</li> <li>・諏訪湖の湖底測量</li> <li>・河川空間のオープン化の概要と事例紹介</li> </ul> </li> <li>○県が実施予定の諏訪湖創生ビジョン推進事業の概要</li> <li>○ワーキンググループからの報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖の日の制定の検討</li> <li>・ごみの無い諏訪湖</li> </ul> </li> <li>○次年度の活動に向けた意見交換</li> </ul>
3	第3回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2019年 5月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和元年度活動計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎水環境保全部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動計画</li> <li>・諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置検討について</li> </ul> </li> <li>◎湖辺面活用・まちづくり部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動計画</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ワーキンググループについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・「諏訪湖の日」の制定の検討ワーキンググループからの報告</li> <li>・ごみの無い諏訪湖ワーキンググループからの報告</li> <li>・今後の検討課題について</li> </ul> </li> </ul>
4	第4回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2020年 3月*	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和元年度活動実績の報告</li> <li>○「諏訪湖の日」の制定の検討ワーキンググループからの報告</li> <li>○第13回いい川・いい川づくりワークショップ in 中部のご案内</li> </ul>
5	第5回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2020年 6月*	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和2年度活動計画の共有</li> </ul>

※第4回、第5回諏訪湖創生ビジョン推進会議は、新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催としました。

	会議名	開催時期	会議概要
6	第6回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2021年 3月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和2年度活動実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎水環境保全部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖内の流況調査</li> <li>・諏訪湖の底質性状の実態と過去からの変化</li> <li>・諏訪湖底泥のプラスチック破片の同定</li> <li>・諏訪湖流域下水道消化ガス有効利用事業</li> </ul> </li> <li>◎湖辺面活用・まちづくり部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖周サイクリングロード ロゴマークについて</li> <li>・スワコエイトピークストライアスロン大会について</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ワーキンググループについて <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ごみの無い諏訪湖ワーキンググループからの報告</li> <li>◎今後の検討課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖周自転車活用推進協議会(仮称)の設立に向けて</li> <li>・「諏訪湖の案内人(仮称)」の養成に向けて</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
7	第7回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2021年 5月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和3年度活動計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎水環境保全部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動計画</li> </ul> </li> <li>◎湖辺面活用・まちづくり部会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動計画</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ワーキンググループの設置について <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖自転車活用推進協議会</li> <li>・「諏訪湖の案内人(仮称)」養成</li> </ul> </li> </ul>
8	第8回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2022年 5月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和3年度活動報告及び令和4年度活動計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎水環境保全部会の取組</li> <li>◎湖辺面活用・まちづくり部会の取組</li> <li>◎ワーキンググループの活動報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖周自転車活用推進協議会</li> <li>・諏訪湖の案内人(仮称)養成講座</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○「諏訪湖創生ビジョン」紹介映像の視聴</li> <li>○諏訪湖創生ビジョンの改定(施策の見直し)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・見直しの方針、スケジュール等について</li> <li>・第8期諏訪湖水質保全計画について</li> </ul> </li> </ul>
9	第9回諏訪湖創生ビジョン推進会議	2023年 3月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諏訪湖創生ビジョン改定(施策の見直し)(案)について</li> <li>○ワーキンググループの設置について <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖の浚渫課題ワーキンググループ</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回諏訪湖まるまるゴミ調査について</li> </ul> </li> </ul>

付属資料 6  
諏訪湖創生ビジョン改定  
(施策の見直し)  
ワーキンググループの実施状況

## 諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）ワーキンググループ

諏訪湖創生ビジョンは、策定時に基本的な考え方や計画期間について5年毎に施策を見直すこととしており、2022年度（令和4年度）がその5年目にあたります。

ビジョン策定後、構成員によりさまざまな改善策が進められ一定の成果を上げていますが、依然として課題は残されていることから、それら諸課題への対応や、社会情勢の変化に対応した新しい視点について検討を行うために、ワーキンググループを設置し、以下の3つのテーマについて意見をうかがいました。

＜ワーキンググループの3つのテーマ＞

- ① ヒシの大量繁茂対策
- ② 水生動植物の管理
- ③ 水辺整備と湖辺面の利活用

### ■ ワーキンググループの実施状況

	会議名	開催時期	会議概要
1	諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）第1回ワーキンググループ	2022年8月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワーキンググループ設置目的・スケジュール</li> <li>○第8期諏訪湖水質保全計画のスケジュール及び骨子について</li> <li>○諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖創生ビジョン5年間の取組結果</li> <li>・諏訪湖浄化に関する工法検討委員会について</li> <li>・これからの取組みについての意見交換</li> </ul> </li> </ul>
2	諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）第2回ワーキンググループ	2022年9月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第8期諏訪湖水質保全計画素案について</li> <li>○対策（ヒシ刈り、覆砂）による水質改善効果について</li> <li>○諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョン改定目次（案）</li> <li>・構成員へのアンケート（案）について</li> </ul> </li> </ul>
3	諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）第3回ワーキンググループ	2022年10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第8期諏訪湖水質保全計画のパブリックコメント結果について</li> <li>○諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成員へのアンケート結果</li> <li>・これからのまちづくりの取組みについての意見交換</li> </ul> </li> </ul>
4	諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）第4回ワーキンググループ	2023年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域懇談会の開催結果について</li> <li>○諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪湖創生ビジョン改定（案）について</li> </ul> </li> </ul>

## ■ 議事概要

### (1) 第1回ワーキンググループ 意見等

#### ◎浄化工法

##### 【ヒシの刈取り】

- 現状のヒシの刈取りは栄養塩の除去を目的にして予算がついており、他の目的でヒシの刈取りを行えない。この点も今後調整する必要がある。
- 「栄養塩の除去」または「景観改善」を目的とした刈取りでは、刈り取り時期等が異なる。景観改善の面からも対策を取ってほしい。
- ヒシの効率的な除去方法について、諏訪湖創生ビジョンの中で試験的に検証してはどうか。
- 刈取り場所の選定についても議論したい。

#### ◎今後のビジョン

- 諏訪湖の今後について、目標を定めてから金銭面や具体的な進め方、やり方を考えていかなければならない。
- 諏訪湖創生ビジョンを改定する際は、方向性やそれを実行することによるリスク、メリット、デメリットなど考えを出し合っているとよい。
- ボランティアでゴミ拾いをしているが、諏訪湖が綺麗になっているとは思えない。湖底に溜まったヒシの腐敗物を取り除かなければ諏訪湖は改善しないのではないか。
- これまでは水質を目標に水質改善に取り組んできたが、現時点では漁獲量の減少や生物の安定的な生息がみられていない状況である。今後5年間の方向としては、湖全体の環境に配慮し、特に沿岸域について施策を進めていく必要がある。

### (2) 第2回ワーキンググループ 意見等

#### ◎第1回ワーキンググループの意見概要

- 生物の生息も非常に大きな点であることから、ヒシの問題に偏ることなくヒシ、浚渫、生物の多様性の3点について議論できることを望んでいる。

#### ◎第8期諏訪湖水質保全計画素案について

- 市民から沈んだヒシが土壌に戻っているのではないかという疑問や、浚渫について多数の意見が挙がっている。
- ヒシの栄養塩類の吸収がどのくらいの効果を発揮するのか、予測結果を踏まえてどう対策するのかを示していただきたい
- 大部分のヒシは湖底で腐敗してりんなどを放出している。刈取り時期についても検討して欲しい。

○ヒシ刈りは水質浄化を前提に考えられているが、景観や悪臭の環境面での改善要望も地元には根強い。建設事務所以外にも県が主体的に予算付けをして浄化対策やヒシ対策をしていくことが望ましい。

○ヒシの利用方法は堆肥化に限定せず、求める人がいれば広く利用できるようになるとよい。

### ◎対策（ヒシ刈り、覆砂）による水質改善効果について

#### 【ヒシの刈取りを実施した方が良い場所】

○水の中に張られた根で水の流れが阻害されるのではないかという懸念から、釜口水門付近で刈取りを行っている。

○カヤックのコースの維持やホテル前面の景観維持の点から、特に間欠泉センターから日赤前のエリアはきれいにして欲しい。

○刈取り量とそれに伴う削減濃度の予測値、コストを示していただき、いつどこにどれだけ使うかの議論ができるとよい。

#### 【ヒシの刈取り時期】

○発芽直後に刈り始めて、広い面積を刈取って欲しい。

○4～6月に刈取りを行うと1日に刈取れる量が少なくなるため、1トン当たりの単価が高くなる。また、水面にヒシが顔を出していないと刈取った場所が分からなくなることや、7～9月に再び繁茂することが懸念される。

○刈り取りの時期・場所は諏訪湖漁協の意見も併せて考えていく必要がある。

#### 【ヒシの刈取りにおけるリソース】

○民間企業として参画できることがあるのか、刈取船と手作業のうち、できるとすればどのような方法があるのか、例えば浅瀬で船が入りこめない場所は手作業でやりたいなど、具体的に示していただきたい。民間のリソースも活用すべきである。

○ひと・もの・かねについては、利用できる船舶や民間の協力も視野に入れて検討できるとよい。

#### 【覆砂】

○覆砂が行われている場所は水質改善効果が確認されている。また、覆砂実施場所もヒシが繁茂してきている。覆砂の候補箇所を選定していく際には、覆砂の実施面積と周辺のヒシの繁茂状況と刈取りの方法との組み合わせなども議論を検討していく必要がある。

#### 【生物及び諏訪湖の現状】

○生態系を議論するに当たって漁協は欠かすことができないので、連絡を密にするようお願いしたい。

### ◎諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）について

#### 【ビジョン改定目次（案）】

○マイクロプラスチック等ごみ問題があまり書き込まれていない。



## ◎その他

○湖岸には流木や大きな石がある。それらの除去・整備をしないと渚の活用ができないのではないかと。

### (3) 第3回ワーキンググループ 意見等

## ◎構成員へのアンケート結果

### 【普及啓発に関する取組み】

○トライアスロンの組織力やPR・宣伝活動は素晴らしく、諏訪湖や八ヶ岳に凄く大きなインパクトを与えた。10/1の諏訪湖の日に合わせてインターネット配信を行ったが、もっと色々考えて有機的に広報活動をしたならば、もっと大きく広がったかもしれないと感じた。お金をかけるならお金をかけて徹底的に活用する形に持っていけると良い。

## ◎これからのまちづくりの取組みについての意見交換

### 【ヒシの刈取り】

- ヒシ刈りや浚渫に対してもどれだけの予算で行っているのか、県民、市民が知る必要があり、これだけ諏訪湖に費やしているということを告知すべき。
- ヒシの刈取り後にクロモを刈ると新芽が出てクロモがさらに増えるという状況である。また、今年、湖岸線では虫が大量に出るといった新しい被害、状況が発生している。費用対効果や新たな問題にも取り組んでいただきたい。

### 【まちづくり】

- どの場所にどのような砂浜を整備するかを考えるに当たり、住民の方々の意見やどんな諏訪湖にしていきたいかという構想が大切になってくる。関係機関の方々と調整しながら検討していく必要がある。
- コロナ禍のこういう時こそかわまちづくりの会議を開いていただき、湖面利用を進めていけば、もっと諏訪湖がよくなると思う。
- 観光と環境は相入れない部分がある。レンタサイクルの増加やサイクリングロードの敷設など、盛り上がりを感じる一方で、人が増えればごみ問題や安心安全という面で事故も増えてくる。これからは安心安全の部分にも取り組まなければならない。
- サイクリングロードの具体的なルールが未だに見えていない。行政だけで協議するのではなく、自転車活用推進協議会のような専門の人をアドバイザーとして入れなければ進んでいかない。

### 【会議の開催方法・イベントの周知等】

- 関心を持つ若い人も参加できるような時間帯に開催するなど、会議の開き方を検討して欲しい。
- トライアスロンや諏訪湖マラソン、花火大会では新聞を使って周知している。それら方法別の効果について整理してはどうか。
- アダプトプログラムがかなり機能している。この場所このタイミングでこの組織が積極的にごみ拾いをしますということを明らかにして動いている活動であり、それを継続していることをリスペクトし賞賛していることが現在まで継続している理由だと思う。また、義務感で続いている部

分も大きい。例えばアダプトプログラムに参加している人に集まってもらって、年に1回大会を開く、あるいは実施しているところをクローズアップした広報を行うなど、上手く心をくすぐる、一般の人も参加したいと思うような仕組みづくりが必要ではないか。

〇ごみ拾い等のイベントがあるということをメディアと連携して伝えていかなければならない。

#### (4) 第4回ワーキンググループ 意見等

##### ◎諏訪湖創生ビジョン改定（案）について

###### 【ヒシの刈取り】

〇ヒシの刈取りはスピードが重要。5年でヒシ除去量を倍にするとしても遅すぎるのではないかと。もっとダイナミックに行わなければならない。

〇これまでに得られた知見に加え、生態系への影響等に関する新たなエビデンスを集積しながらヒシの刈取りを進める必要がある。

〇これまでの研究成果の総括を行い、それに基づいて対策の方向性を決めなければ、刈取り量の数字だけが一人歩きをする。諏訪湖の目指す姿、5年間で実施する対策、対策に必要な費用、これらをしっかりと打ち立てて進めていただきたい。

###### 【生態系】

〇持続可能な漁業環境への回復が概ね15年後とされているが、もっと早くする回復させること、また、どうしたら早くできるのかを考えていただきたい。

###### 【覆砂】

〇直近の約10年で砂地に埋め立てた部分が、その後どうなったかの結果を調べていただきたい。砂地の面積を広げてなだらかな湖にしたら改善がみられるのではないかと。

〇スポット的に覆砂事業をしても、数年経てば元の状態に戻るのが自然の流れである。面積を拡大すれば効果は出るだろうが、予算との兼ね合いで難しい面もあると理解している。

〇モニタリング調査の結果から、覆砂による水質及び底質の改善効果がみられている。渋崎と日赤沖の覆砂場所は施工から5年以上が経過しているが、改善効果は持続されている。

〇環境と建設のセクションが有機的に連携して、Plan, Do, Check, Actionのサイクルを一貫して見られるようになるとうい。

###### 【全般・その他】

〇10年以上経って未だに調査研究なのかという思いは強くある。エビデンスを得るのも重要だが、調査研究から事業に移行するのはいつになるのか。昨年に初めて県民参加型予算という動きがあったが、諏訪湖には県が動き出さないと民間では手をつけられない場所がある。国土交通省の湖沼水質改善技術適用マニュアルを参考にしたり、順応型管理という考え方を長野県にも持っていただきたい。

〇調査研究も含めて諏訪湖環境研究センター（仮称）がキーになってくる施設。諏訪湖の環境・活用を考えていく上では、調査研究と併せて学びの機会を考えていかなければならない。具体的にセンターで何を行うかを諏訪湖創生ビジョンで示せるとよい。

付属資料 7  
地域懇談会の開催状況

## 1. 諏訪湖創生ビジョン改定に向けての地域懇談会（2022年11月開催）

### ■ 懇談会の概要

- 1 日時** 2022年（令和4年）11月28日（月）  
午前9時30分から午前11時30分まで
- 2 場所** 諏訪合同庁舎 講堂、県庁から知事が Web 参加
- 3 参加者** 諏訪湖創生ビジョン推進会議の構成員、地域住民、市町村等  
(50名程度)
- 4 概要**
- ・ 諏訪湖創生ビジョンの動画視聴を行った。
  - ・ 諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）の考え方、5年間の主な取組実績について説明した。
  - ・ 下記の課題を中心に地域住民と知事らが意見交換を行った。
    - （1）ヒシの大量繁茂対策について
    - （2）水生動植物の管理について
    - （3）水辺整備と湖辺面の活用について

### ■ 参加者からの主な意見等

#### (1) ヒシの大量繁茂対策について

項目		主な意見
施策方針	生態系	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ヒシを減らし他の植物に置き換える対策が必要</li><li>・ ヒシを減らすとアオコが増えるため、適切な刈取りが必要</li><li>・ ヒシ除去による魚介類等の生態系への影響が危惧される</li></ul>
	環境面	<ul style="list-style-type: none"><li>・ （国民スポーツ大会開催のための）ヒシ刈取りの早期実施が必要</li></ul>
施工方法		<ul style="list-style-type: none"><li>・ ヒシの堆肥化でゴミが支障となるため、対策が必要。刈取り後の有効活用の検討が必要</li></ul>
処分方法		<ul style="list-style-type: none"><li>・ ヒシ刈りに使用した船の修理代支援の要請</li></ul>
民間支援		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 小型船の購入による民間支援の要請</li></ul>

#### (2) 水生動植物の管理について

項目	主な意見
施策方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生物の生息場所の整備が必要</li><li>・ 漁獲量減少対策としての放流事業が必要</li><li>・ 漁業の漁獲制限が必要</li></ul>

(3) 水辺整備と湖辺面の活用について

項目		主な意見
施策方針	全体	• 諏訪湖の水深が浅くなる対策として浚渫が必要
	治水	(意見等なし)
	利水	• 初島付近では観光のため浚渫が必要。国民スポーツ大会の実施も考慮が必要 • ヨットハーバー付近は土砂が堆積しており、ヨットの運行に支障があるため、浚渫が必要
	生態系	• ヒシの繁茂対策として浚渫が必要 • 過去の浚渫により貝やエビがいなくなった。生態系を考慮した浚渫が必要
処分方法		• 浚渫土砂の処分場が課題。6市町村も含めた検討が必要

(4) その他

項目	主な意見
その他 (湖辺面活用・まちづくり)	• 諏訪湖の防災拠点化 • 河川空間オープン化・かわまちづくりの進捗



(写真左)  
地域懇談会  
開催の様子



(写真右)  
懇談会にWeb参加する  
阿部長野県知事

## 2. 諏訪湖創生ビジョン改定に向けての地域懇談会（2023年2月開催）

### ■ 懇談会の概要

- 1 **日時** 2023年（令和5年）2月6日（月）  
午後1時30分から午後3時まで
- 2 **場所** 伊那合同庁舎 講堂
- 3 **参加者** 天竜川流域の漁業協同組合、環境活動団体、市町村等  
(20名程度)
- 4 **概要**
  - ・ 諏訪湖創生ビジョンの動画視聴を行った。
  - ・ 諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）の考え方、5年間の主な取組実績について説明した。
  - ・ 「諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）（案）」について説明し、意見交換を行った。

### ■ 参加者からの主な意見等

#### (1) ヒシの大量繁茂対策について

項目	主な意見
施策方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人海戦術によるヒシ刈取りには限界がある。機械を活用して、目標の数字達成をお願いしたい。</li><li>・ ヒシと水質の因果関係など、様々な知見を集めて活動を展開していただきたい。</li></ul>

#### (2) 水辺整備と湖辺面の活用について

項目	主な意見	
施策方針	全体	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 皆さんの努力もあって諏訪湖は洗練された素敵な環境になっている。サイクリングロードを整備し、観光客も呼べる諏訪湖は魅力的である。</li><li>・ 泳げるような諏訪湖ができれば、天竜川の下流に住む人間としても素晴らしく思う。</li></ul>
	生態系	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観光客の増加に伴い、ごみによる諏訪湖の汚染や指定生物への影響が懸念される。</li></ul>

#### (3) その他

項目	主な意見
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 諏訪湖には30余りの流入河川があり、流出河川は天竜川のみ。どのくらいの量のマイクロプラスチックが天竜川を通じて下流や海へ行くのかわからない。個人個人の心がけについても考える必要がある。</li><li>・ 諏訪湖周辺ではどの程度、汚水の処理が進んでいるのか。</li></ul>

## 付属資料 8 用語解説

## あ

### ・アオコ

富栄養化の進んだ池や湖沼で異常繁殖した植物プランクトンが湖面に塊状として浮いているもの。アオコの語源は「青粉」で、青い粉をまいたようにみえることから「アオコ」と呼ばれる。諏訪湖では昭和30年代後半に大量のアオコが発生するようになったが、これまでの水質改善に伴い近年は発生が少なくなっている。

### ・アダプトプログラム

河川、道路、公園等の一定範囲の美化活動を住民、団体、企業等が、親が子を育むように取り組み、行政がこれを支援する制度。

## い

### ・インスタ映え

SNSの一つで写真共有サービスの「Instagram」（インスタグラム）に写真を公開した時にひととき映える、見栄えが良い、という意味で用いられる表現。インスタグラムを念頭において写真写りが良いと述べる言い方。

### ・インフラツーリズム

公共施設（インフラストラクチャー）の景観などを観光資源と位置付け、実際に現地へ赴き観光旅行すること。多くの関連施設を管理する国土交通省も積極的な利用を奨励しており、政府が推進する訪日外国人旅行増加手段の一つの柱として位置付けている。

## う

### ・上乘せ排水基準

水質汚濁防止法などで定めている全国一律の排水基準では、その地域の人の健康を保護し、または生活環境を保全することが十分でないとき、全国一律の排水基準に代えて適用するものとして都道府県が条例で定めたより厳しい排水基準をいう。長野県では「良好な生活環境の保全に関する条例」により上乘せ排水基準を定めている。

### ・雨水の貯留・涵養機能

雨水を貯留し、河川等へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和する機能のことをいう。水質汚濁物質の諏訪湖への流入を少なくする効果もある。

## え

### ・エコトーン

河岸や湖沼の沿岸など生物の生息環境が連続的に変化する場所を指し、多様な生物の生息場所となるため重要である。「移行帯」または「推移帯」と訳される。



## ・エゴ

入江状の水生植物帯。エゴの内部には、湖に関係する生物のほか、水生植物の茎や葉を生活場所とする昆虫類や陸地の動物なども生息し、魚類の産卵場所でもある。諏訪湖ではかつて、横河川と砥川のデルタ突出部の入江の小群落の「エゴ」と高浜、渋、泉沢の大群落の「エゴ」が存在していた。

## ・SNS

ソーシャル・ネットワーク・サービスの略で、人と人とのつながりを促進・サポートする、「コミュニティ型の会員制のサービス」のことである。代表的なサービスに、Facebook、twitter、Instagram、LINEなどがある。

## お

### ・汚濁負荷量

陸域から排出される有機物や窒素、りん等の汚濁物質により水環境に与える負荷の量をいう。

### ・汚濁負荷量規制基準

指定地域内の1日当たりの平均的な排水量が50m<sup>3</sup>以上の工場・事業場に適用される総量規制基準であり、事業場ごとに算出された化学的酸素要求量（COD）、窒素含有量及びりん含有量の汚濁負荷量の許容限度。

## か

### ・快適生活率

下水道、農業集落排水などの集合処理計画区域や浄化槽による整備計画区域内において、整備されたそれぞれの生活排水施設を実際に利用している人口の率。

【算定方法】（下水道等への接続人口＋浄化槽設置人口）／行政人口×100（%）

### ・環境基準

大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準を、行政上の目標値として定めたもの。

### ・環境にやさしい農業

「有機物の土壌還元による土づくりと合理的作付体系を基礎として、化学肥料、化学合成農薬、化学合成土壌改良資材を科学的・合理的に削減し、環境保全と生産性の維持・向上との調和を図りつつ、農家が幅広く実践できる持続性の高い農業」のこと。

## け

### ・下水道普及率

下水道を利用できる地域環境にある人の人口を、住民基本台帳人口で除した割合をいう。

### ・減肥対策

窒素、りんの流出を防ぐため、農地において化学肥料の施肥量を少なくするための対策をいう。「信州の環境にやさしい農産物認証」は減肥対策の一つである。

## こ

### ・湖辺環境保護地区

湖沼の水環境の保全の観点から、湖沼、湖岸から湖沼と一体で存在する湿地帯、流入河川河口部、内湖等において、植生を一体として保全する必要があるとして、湖沼法に基づき指定された地区。

## さ

### ・サイクリングスペース

諏訪湖周サイクリングロード基本計画で定めている空間で、サイクリングロードや休憩施設等を含む空間をサイクリングスペースとしている。

## し

### ・COD

化学的酸素要求量（Chemical Oxygen Demand）。有機物による湖沼などの汚濁の程度を示すもので、水中の汚濁物質を酸化剤によって酸化するときに消費される酸素の量をいう。数値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示している。

### ・COD（75%値）

CODの水質測定結果の評価方法の1つであり、水質環境基準の適否の判定などに利用される。全データを小さいほうから並べた時に、[データ数×0.75] 番目の値をいう。例えば年間のデータ数が12個の場合、小さいほうから9番目の値となる。これは河川の低水流量（1年を通じて275日はこれより低下しない流量）における水質を反映している。

### ・浚渫

諏訪湖では、アオコの発生の原因となるプランクトンの異常発生の対策の一つとして、湖内に蓄積した栄養塩（窒素、りん）の除去を目的に底泥の浚渫事業を昭和44年に着手。アオコの発生の減少、全りんが環境基準を達成するなど水質の改善に一定の効果があったこと、浚渫土の処分先の確保が困難になったことなどから平成15年に中止となっている。

### ・植生水路

ヨシ等の水生植物に栄養分を吸収させ、これを刈り取り河川外に持ち出すことを目的とした水路をいう。

### ・信州の環境にやさしい農産物認証

地域の一般的な栽培法と比較して化学肥料及び化学合成農薬を原則50%以上削減した方法で生産された農産物を県知事が認証する制度。

### ・森林の公益的機能

森林は木材を生産するだけでなく、野生動植物に多様な生育の場を提供し、水を貯え、洪水や山崩れなどの災害を防ぎレクリエーションの場を提供するほか、安らぎなどを与える景観としてや、また、二酸化炭素を吸収・固定するなど多様な機能を有しており、これらを総称して「森林の公益的機能」という。

## す

### ・水門カード

国土交通省等の管理するダムでは、ダムのことを知ってもらうために、おもて面にダムの写真、うら面はダムの形式や貯水池の容量・ダムを建設したときの技術などの情報を掲載したダムカードを配布している。これに準じて、長野県では県管理17ダムの他、釜口水門の情報を記載した水門カードを配布している。

### ・諏訪湖創生ビジョン推進会議

「諏訪湖創生ビジョン」の実現に向け、県、市町村、地域住民、企業等官民が協働し、地域一体となって取組みを推進するため平成30年に設置し、水質保全対策や生態系保全対策、水辺整備、湖辺面の利活用等に関する活動を行っている。

## せ

### ・全窒素

水中に含まれる無機性窒素及び有機性窒素の総量。数値が高いほど汚れが大きいことを示す。

### ・全りん

水中に含まれる無機性りん及び有機性りんの総量。数値が高いほど汚れが大きいことを示す。

## た

### ・多自然川づくり

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史、文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために行う河川管理（調査、計画、設計、施工、維持管理など）のこと。

### ・多面的機能支払交付金

農業の持つ多面的機能（国土保全・水源かん養・環境保全など）の維持・発揮のため、地域ぐるみで取り組む共同活動を支援する制度。

## ち

### ・中山間地域農業直接支払事業

中山間地域などの農業生産条件が不利な地域において、5年以上農業を続けることを約束した農業者に対して、交付金を交付する制度。

### ・抽水植物

水底に根を張り、茎と葉が水面から出ている植物のことをいう。諏訪湖ではヨシ、マコモなどの抽水植物が確認されている。

- ・沈水植物

水底に根を張り、茎と葉が水面下に沈んでいる植物のことをいう。諏訪湖では、エビモ、ササバモ、クロモなどの沈水植物が確認されている。

- ・沈殿ピット

湖内への栄養塩類（窒素、りん等）の諏訪湖への流入を低減するため、栄養塩類の流入が最大と考えられる上川河口部に、窒素、りんが付着した流入土砂を堆積させて除去するために掘削した場所のこと。

## て

- ・底層溶存酸素量

底層溶存酸素量は、底層付近における溶存酸素の量であり、この値が低下すると底層に生息する生物のへい死等が起こる。水域の底層を生息域とする魚介類等の水生生物や、その餌生物が生存できることはもとより、それらの再生産が適切に行われることにより、底層を利用する水生生物の個体群が維持できる場を保全・再生することを目的に、平成28年3月に新たに環境基準の項目（生活環境項目）として追加された。

- ・DO

溶存酸素（Dissolved Oxygen）。水中に溶け込んでいる酸素の量のこと。水の浄化作用に必要な水中生物の生存には欠くことのできないもので、きれいな河川水中には普通1リットル中に7～14mg程度あるが、有機物の流入量が多くなり、汚濁が進行すると減少する。

- ・点源

家庭や工場・事業場のように特定の場所から汚染物質が排出される汚染源のこと。特定汚染源とも呼ばれる。

## と

- ・透明度

直径30cmの白色円板を静かに水中に沈めて、この白色円板が見えなくなる深さと、次にゆっくり引き上げて見え始めた深さとを反復して確かめたそれぞれの深さを平均したもの。

- ・特定外来生物

もともとその地域にいなかった、人間活動によって他の地域から持ち込まれた生物（外来生物）のうち、地域の自然環境に大きな影響を与えたり、農作物に被害を与えたりするものとして「外来生物法」で指定されたもの。

## な

- ・内水面養殖管理指針

内水面養殖業は飼育池又は湖沼等極めて狭い閉鎖性水面で行われるため、特に水質汚濁の影響を強く受けることなどから、養殖業者自らが養魚用水の水質保全を図ることを目的に、養殖魚の飼育密度や飼料の適正給餌量の基準等について、国(水産庁)が策定したもの。

## は

### ・排水基準

水質汚濁防止法や条例に基づく工場・事業場からの排水に関する規制基準であり、有害物質については排水量にかかわらず、全ての特定事業場に適用される。有害物質以外の項目については、排水量が一定量以上の特定事業場に適用される。

## ひ

### ・BOD

生物化学的酸素要求量（Biochemical Oxygen Demand）。有機物による河川水などの汚濁の程度を示すもので、水中に含まれる有機物質が一定時間、一定温度のもとで微生物によって酸化分解されるときに消費される酸素の量をいい、数値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示している。

### ・貧酸素

水中の溶存酸素が欠乏している状態をいう。

## ふ

### ・富栄養化

湖沼、海等で、窒素やりんなど、栄養物質の濃度が上昇すること。これにより、アオコの発生や赤潮を引き起こす。

### ・覆砂

底泥に覆われている湖岸に砂を敷き詰め、砂地の湖岸を造成すること。湖底からの窒素・りんの溶出を抑制するとともに、底質の改善により有機物分解に伴う酸素消費量を低減させ、貧酸素化の抑制できる。また、遠浅の環境に生息する生物の生息場所の創出に繋がり、シジミの生息環境やヒシの繁茂抑制の効果も期待できる。

### ・物質収支

物質の出入りの量的な関係を意味し、「流入量－系内での変化量＝流出量」の関係となる。例えば、諏訪湖での「窒素の物質収支」では、「諏訪湖へ流入する窒素量（河川からの流入、大気からの降下）」－「湖内での変化量（湖内への蓄積、プランクトンによる消費、大気への放出など）」＝「釜口水門から流出する窒素量」という関係になる。

### ・不法投棄監視連絡員

不法投棄の未然防止と早期発見・早期対応のため、県が任命し、地域において定期的なパトロールと情報提供を行っていただく方をいう。

### ・浮葉植物

水底に根を張り、葉が水面に浮かんでいる植物のことをいう。諏訪湖では、ヒシ、アサザなどの浮葉植物が確認されている。

## ま

### ・マイクロプラスチック

一般的には5 mm以下の微細なプラスチックごみのこと。プラスチック製品が、環境中で紫外線や風雨の影響により破碎・細分化されることなどにより発生し、有害物質の吸着や誤食による生物への影響が懸念されている。

## み

### ・みどりの食料システム法

農林漁業および食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展を図るため、環境と調和のとれた食料システムの確立に関する基本理念や地方公共団体の責務、農林漁業に由来する環境への負荷の低減を図るために行う事業活動等に関する計画の認定制度の創設等について定めた法律。

### ・みんなの諏訪湖～諏訪湖読本～

「諏訪湖創生ビジョン」に基づき、諏訪地域の小学生が諏訪湖に対する理解を深めてもらうための副教材をして作成し、諏訪地域の全小学校の3・4年生に配布した冊子。（令和2年3月発行）

## め

### ・面源

市街地、農地、森林のように面的な広がりをもつため、汚染物質が排出される場所が特定できない汚染源のこと。非特定汚染源とも呼ばれる。

## ゆ

### ・有機塩素系化合物

塩素を含む有機化合物の総称。このうち、揮発性の高い有機塩素化合物は、沸点が低く不燃性で、溶解力、脱脂力が大きいなどの特徴があるため、金属部品等の脱脂洗浄剤、ドライクリーニング溶剤等として広く利用されている。発がん性物質とされるトリクロロエチレン等が水質汚濁防止法の有害物質に指定されている。

## り

### ・流出水

農地・市街地等の面源から諏訪湖に流入する汚濁負荷を含んだ水。

### ・緑肥作物

植物体をそのまま土壌にすき込んで分解させ、直接または間接的に作物に養分供給を目的として作付される作物。作物の種類としてはれんげや青刈大豆などのマメ科作物、トウモロコシやソルゴーなどイネ科作物等を使用する。肥料成分もあり、わらなどのように堆肥代替としての効果もみられる。

### ・輪作

一定年の期間同じ圃場に種類の違う作物を一定の順位に従い、順に栽培することをいう。

## る

### ・ 類型当てはめ

水質汚濁に係る環境基準のうち、CODなどの生活環境項目については、水域の利用目的に応じて複数の類型に区分され、それぞれの環境基準値が設定されている。水域での利水目的や水生生物の生息状況の適応性を踏まえ、複数の類型の中からある類型を指定することを「類型当てはめ」という。「底層溶存酸素量」は、生物1（基準値4.0mg/L以上）、生物2（同3.0mg/L以上）、生物3（同2.0mg/L以上）の3つの類型に区分されている。

付属資料 9  
諏訪湖創生ビジョン改定  
(施策の見直し)に関するアンケート



## 諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）に関するアンケート

### (1) 実施概要

- ・実施方法 : 諏訪湖創生ビジョン策定から5年経過し、「みなさまの取組みによる諏訪湖の変化」や「今後、更に諏訪湖で取り組みたい計画」などについて、諏訪湖創生ビジョン推進会の議構成団体を対象にアンケートを実施し、意見を募った。
- ・実施期間 : 2022年（令和4年）9月21日～10月20日
- ・配布対象者 : 諏訪湖創生ビジョン推進会議 構成員（45団体）
- ・配布方法 : メール
- ・回答数 : 15団体

### (2) 設問内容

1. 策定から5年間（平成30年度～令和4年度）の主な取組み内容と成果を教えてください。
2. 今後継続して取り組みたいことは何ですか？
3. 今後新たに取り組みたいことは何ですか？
4. この5年間で諏訪湖は目指す姿に近づいたと思いますか？
5. 今後、諏訪湖が目指す姿に近づくためには、どのような取り組みが必要ですか？そのために、誰と連携したいですか？
6. 皆さんが実施している取り組みは住民の皆さんに伝わっていると思いますか？  
上記の回答について、そのように思った理由を教えてください。
7. その他、ご意見をお聞かせください。

**諏訪湖創生ビジョン改定（施策の見直し）アンケート**

諏訪湖創生ビジョンでは人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖という長期ビジョンを実現するために、以下の4つの目指す姿のための取組みを進めています。

① 清らかで人々が楽しむことができる湖水・湖辺  
② 多種多様な生き物を育む湖  
③ 人々が楽しい、やすらげる水辺空間  
④ 諏訪湖の恵みを知り、育つ学びの場

策定から5年経過し、「みなさまの取組みによる諏訪湖の変化」「今後、更に諏訪湖で取り組みたい計画」などについてご意見をお聞かせください。

令和4年9月 長野県諏訪地域振興局

各団体1回答をお願いいたします

ご所属		
お名前		
1. 策定から5年間（平成30年度～令和4年度）の主な取組み内容と成果を教えてください。	主な取組みの内容	
	成果の内容	
2. 今後継続して取り組みたいことは何ですか？	取組みの内容	
	①～④の目指す姿のどこに該当しますか ①( ) ②( ) ③( ) ④( )	
3. 今後新たに取り組みたいことは何ですか？	取組みの内容	
	①～④の目指す姿のどこに該当しますか ①( ) ②( ) ③( ) ④( )	

4. この5年間で諏訪湖は目指す姿に近づいたと思いますか？	① 近づいた ② 変わらない ③ 進まなかった
上記の回答について、5年間でどの点がどのように変わったのでそう思いましたか？	
どの点:	
どのように変わった:	
5. 今後、諏訪湖が目指す姿に近づくためには、どのような取り組みが必要ですか？	取組みの内容
そのために、誰と連携したいですか？	
6. 皆さんが実施している取り組みは住民の皆さんに伝わっていると思いますか？	① 伝わっている ② 伝わっていない ③ わからない
上記の回答について、そのように思った理由を教えてください。	理由:
その他、ご意見をお聞かせください。	

提出先: 長野県 諏訪地域振興局 企画振興課  
連絡先: 〒392-0021 長野県諏訪市上川1丁目1644-10, Tel: 0266-57-2901  
**締切り 令和4年10月20日**

### (3) 結果の要約

#### 1) 策定から5年間（平成30年度～令和4年度）の主な取組み内容と成果

##### <湖岸・湖面美化に関する取組み>

- ◆ 湖岸・湖面清掃（災害ゴミの収集、流入河川のゴミ収集、浮遊ゴミの回収、諏訪湖畔のゴミ拾い、河川愛護活動としてのゴミ拾い・草刈り）
- ◆ 調査（水辺のゴミ調査、諏訪湖まるまるゴミ調査）
- ◆ 諏訪湖アダプトプログラム

##### <ヒシに関する取組み>

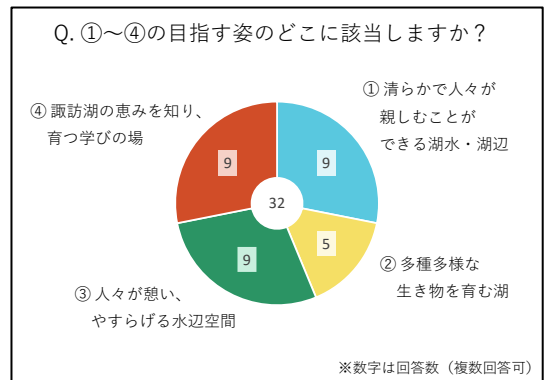
- ◆ ヒシの刈り取り
- ◆ ヒシの堆肥化、ヒシ堆肥の農地還元

##### <普及啓発に関する取組み>

- ◆ 普及啓発イベント（4LC環境フォーラム、諏訪湖の日フォーラム、浄化講演会、諏訪湖でのカヤック体験、諏訪湖を活用したスポーツ体験会、諏訪湖一周「スイッチ」、諏訪市博物館と協力した講演会）
- ◆ 環境学習（学校、社員、社員の子供）

##### <その他の取組み>

- ◆ 書籍「散歩しながら諏訪湖に学ぶ」の作成
- ◆ 遺跡・史跡・歴史的文化財等の調査研究、普及活動
- ◆ ウォーキングガイド「星降る中部高地の縄文世界」遺跡等の作成配布
- ◆ 防災、減災対策として中小河川沿いの支障木の伐採、撤去
- ◆ CO<sub>2</sub>削減に向けた主伐、再造林の実施
- ◆ 農業生産面における環境保全への取組の啓蒙、循環型農業の推進、環境負荷に配慮した各戸の状況に対応した施肥体系の提案
- ◆ 諏訪湖創生ビジョンへの参画
- ◆ 安全祈願祭の開催



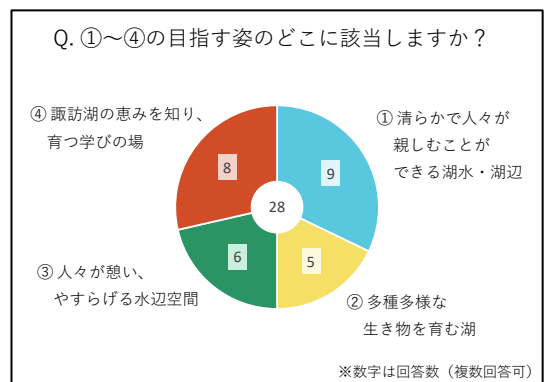
#### 2) 今後新たに取組みたいこと

##### <湖岸・湖面美化に関する取組み>

- ◆ 流入河川を含めた水辺のごみ調査・ごみ回収
- ◆ 諏訪湖畔の美化活動として草刈りや植樹
- ◆ 企業研修や教育旅行とあわせた清掃プログラムの造成

##### <ヒシに関する取組み>

- ◆ 行政と民間企業が連携したヒシ刈り



### <普及啓発に関する取組み>

- ◆ 環境学習の拡充（小学校単位で水循環の出前授業 等）
- ◆ SUP 体験やテントサウナといった誘客コンテンツの提供
- ◆ 浮葉植物のヒシなど、外来動植物の駆除等の地域活動・ボランティア活動などの組織づくり等

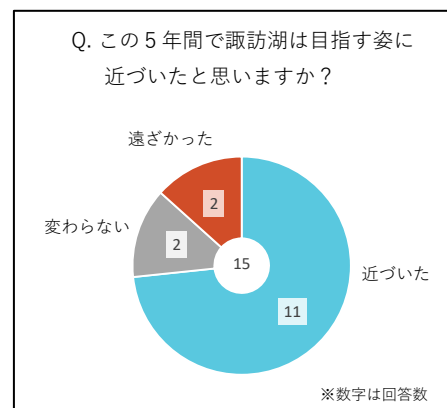
### <その他>

- ◆ 諏訪湖流域との関わりを生み出すための様々な機会の充実と支援
- ◆ 適地、適木のモデルになれる再造林
- ◆ 新たな取組みではなく、今までの取組みの質向上と深耕
- ◆ カヤック・カヌーで漕ぎやすい環境整備・水辺散策を楽しめる散策路などを行政に提案
- ◆ 諏訪湖での体験メニューを通じた SDGs プログラムの開発
- ◆ 持続可能な農業、環境負荷に配慮した農業への取組
- ◆ 諏訪湖底の「曽根遺跡」について、地域住民により深く知ってもらう活動

## 3) この5年間で諏訪湖は目指す姿に近づいたか

### <近づいた (11/15 件) >

- ◆ 地域住民を中心に、諏訪湖創生への思いを持つ人が増えてきた。
- ◆ 恒常的に諏訪湖への関心が高まった。
- ◆ 諏訪湖及び流入河川の現状・自然環境に関心を持つ人々が少しずつ増えた。
- ◆ 学校の自由研究や総合の時間で取り扱われた。諏訪湖の水質やヒシについて興味を持つ方が増えた。
- ◆ 諏訪湖をテーマにした講演会（すわ大昔フォーラム）は毎回盛況だった。
- ◆ アオコが出なくなった。
- ◆ 透明度が昔に比べて改善されたことで、時期によって湖底を泳ぐ魚影を観察できるようになった。
- ◆ 湖水・湖辺が美化され、人々が憩い、やすらげる湖に徐々になっている。
- ◆ 諏訪湖全体で調査を行う「諏訪湖まるまるゴミ調査」が始まり、分析結果を通じて、海洋プラスチック問題やマイクロプラスチックなど新たな問題に対する啓発が図られた。水辺のごみの量に大きな変化はないが、諏訪湖全体でのゴミ調査も始まり、結果を公表することで、清掃参加者の意識が高まった。
- ◆ 諏訪湖畔の美化清掃により少しずつゴミが減り景観が良くなってきた。（サイクリングロード等の整備もあるが）
- ◆ 諏訪湖清掃活動や諏訪湖について考える機会（勉強会など）が増えている。また、諏訪湖周サイクリングロードをはじめ、諏訪湖周全体が整備されている。放置されている場所がない。



### <変わらない (2/15 件) >

- ◆ 特になし

#### <遠ざかった (2/15 件) >

- ◆ 諏訪湖の水草（ヒシ）が増加した。

#### 4) 今後、諏訪湖が目指す姿に近づくためには、どのような取り組みが必要か

##### <湖岸・湖面美化に関する取り組み>

- ◆ 流入河川まで含めた水辺のごみ調査
- ◆ 多くの人を巻き込んだ環境美化活動

##### <ヒシ（水草）に関する取り組み>

- ◆ ヒシの除去
- ◆ 藻狩り船の水草収集目標重量を増加させる。

##### <その他の取り組み>

- ◆ 諏訪湖周辺又は水辺に人を集めるためのイベントの実施
- ◆ 多くの方が参加したくなる魅力のある取り組みを考え宣伝する
- ◆ 住民参加型の水生生物等調査
- ◆ 増水時、流木、枯草等の流入を防ぐ
- ◆ 諏訪湖について小学生が祖父母世代から聞き取りして、学校単位で発掘発表することにより親世代も学べる学習教育
- ◆ 産官学民が連携した主体的な改善活動
- ◆ 民間事業者が行う取り組みを自治体が情報共有し、その実施内容を周知する
- ◆ 河畔林の整備
- ◆ 河川愛護活動
- ◆ 諏訪湖集水域の田畑において、環境負荷に配慮した持続可能な農業への取り組み
- ◆ 活動の継続
- ◆ 諏訪湖の歴史や湖底の「曽根遺跡」に関する住民理解を促進するための取り組み

#### 5) 4.のために誰と連携したいか

- ◆ 行政（長野県、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、水産試験場、諏訪建設事務所）
- ◆ 諏訪湖漁業協同組合
- ◆ 諏訪湖創生ビジョン推進会議構成団体
- ◆ SDGs 推進企業
- ◆ ヒシ刈業者・湖岸整備事業者
- ◆ 諏訪商工会議所
- ◆ 諏訪青年会議所
- ◆ 他圏域の環境団体等
- ◆ 地域住民
- ◆ 農業者
- ◆ 教育委員会
- ◆ 現時点で明確ではないが、必要に応じて相談できる体制が必要

## 6) 皆さんが実施している取組みは住民の皆さんに伝わっているか

### <伝わっている (9/15 件) >

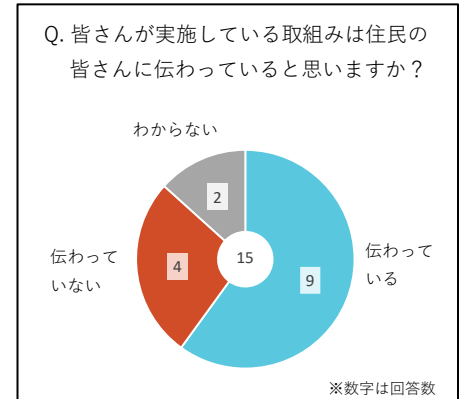
- ◆ 毎月行っている湖岸清掃には多くの住民・団体に参加してもらっている。ただし、これは下諏訪町に限定したことであり、この活動を流域全体に広げていく必要があると考える。
- ◆ 活動を通して出会いの場が増えつつある。
- ◆ 「ヒシって何？」という質問が減った。
- ◆ プレス報道により多くの方々から支援の言葉をいただいている。
- ◆ 新聞や自治体の広報誌などで情報発信している。

### <伝わっていない (4/15 件) >

- ◆ 関係企業や学校関係者と話す限り、諏訪湖の状況を知っておらず、知っているのはヒシの大量発生のみである。
- ◆ カヤック体験について知らない諏訪市民が多く、清掃活動についてはもっと知られていないように感じている。
- ◆ マスメディアを含めて、もっと伝えることを徹底し、様々な機会を作り参加してもらう。
- ◆ 講演会への参加人数は多く、関心が高まっていることは感じるが、一部の愛好者等に限定されていると思われる。

### <分からない (2/15 件) >

- ◆ 山林の持ち主（個人・団体）に意識の格差が大きい。



## 7) その他、ご意見

- ◆ 構成団体による個々の取組みは進んでいるが、推進会議が主体となったイベント等に構成団体に関わるという機会が少なく、年1～2回程度の会議で顔を合わせるだけなので、組織としての一体感が感じられない。今後、諏訪湖創生ビジョンを推進していくためには、行政、事務局だけが動くのではなく、推進会議の構成団体が一丸となって取り組んでいく必要があるのではないかと。例えば、幹事や理事などを設けて幹事会・理事会などを行う、あるいは、推進会議主催のイベント等を行う際に実行委員会を設けるなど、自分たちが運営に係わっているという状況を作り出すことが必要ではないかと。
- ◆ 諏訪湖で活動している私たちがお力になれることがあれば声をかけて欲しい。
- ◆ 年代を超え、膝を交えて諏訪湖の創生、環境美化を話し合う場を設定してほしい。
- ◆ 浚渫の再開。
- ◆ 天竜川流域に居住しているが、天竜川を流れる水の色はずっと変わっていない。
- ◆ 諏訪湖創生ビジョンが形だけでなく具体的なアクションにつながることを願う。そのためには諏訪湖創生ビジョンの各メンバー、そして県が本気になって課題解決に向けて自らが主体的に考え、動くこと。
- ◆ 当初様々な意見が出て活気があったが、ここにきて行政主体の傾向が見られ、個人の意見が出しづらく感じる。
- ◆ 「諏訪湖の日」が制定されたのは、我々の活動を通して一般市民にアピールできる機会が生まれたので良かった。

付属資料 10  
諏訪湖インスタグラム  
フォトコンテスト入賞作品

## 諏訪湖 Instagram フォトコンテスト入賞作品

諏訪湖の魅力を世界に発信するため、諏訪湖創生ビジョン公式 Instagram を利用し、フォトコンテストを開催しました。

### ◆ 募集期間

2020 年（令和 2 年）8 月 1 日～10 月 31 日 17:00 まで

### ◆ 募集テーマ

諏訪湖の風景部門：世界に伝えたい！とっておきの諏訪湖の風景

諏訪湖の魅力部門：世界に伝えたい！諏訪湖の魅力あるモノ・コト・ヒト

（例：グルメ、行事、文化、諏訪湖に関わる素敵な人 等）

### ◆ 応募作品数

470 点（うち諏訪湖の魅力部門 138 点、諏訪湖の風景部門 332 点）

審査の結果、下記の作品が入賞いたしました。

### ■ 【最優秀賞】（諏訪湖の魅力部門投稿作品）



a1ohappy777 様の作品



---

■ 【優秀賞】

(諏訪湖の魅力部門)



oga. 7 様の作品

(諏訪湖の風景部門)



takahirosagawa 様の作品

---

■ 【諏訪湖創生ビジョン賞】

(諏訪湖の魅力部門)



Photo by HirasannoPEN  
hirasannopen 様の作品

(諏訪湖の風景部門)



ys. ryosuke 様の作品